

平成28年度  
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(平成27年度対象)

平成28年11月

深谷市教育委員会



## 目 次

1 趣 旨	1 頁
2 点検評価の目的	1 頁
3 点検評価の対象及び方法	2 頁
4 深谷市教育振興基本計画の施策体系	3 頁
5 点検評価表及び重点施策評価表	
I 社会を生き抜く力の育成	
(1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	4 頁
(2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	8 頁
(3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	12 頁
(4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	16 頁
(5) 高い志をもつキャリア教育の推進	18 頁
(6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	22 頁
II たくましく生きるための心と体の育成	
(1) まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	26 頁
(2) いじめ・不登校の防止	30 頁
(3) 生徒指導の充実	34 頁
(4) 人権を尊重した教育の推進	36 頁
(5) 健康の保持増進	40 頁
(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	42 頁
III 信頼される学校教育の推進	
(1) 信頼される教職員の育成	46 頁
(2) 子どもたちの安心・安全の確保	50 頁
(3) 学習環境の整備・充実	54 頁
IV 家庭・地域の教育力の向上	
(1) 家庭の教育力の向上	58 頁
(2) 地域の教育力の向上	60 頁

V	生涯を通じた学習活動の推進	
(1)	学習機会の提供と学習活動の支援	64頁
(2)	活動施設の整備・充実	66頁
(3)	図書館の整備・充実	68頁
VI	深谷らしい文化の創造	
(1)	渋沢栄一翁の顕彰	70頁
(2)	伝統文化の保存・継承と活用	72頁
(3)	文化・芸術活動の活性化	74頁
VII	生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	
(1)	スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	78頁
(2)	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	80頁
6	結びに	82頁

## 1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、すべての教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

本市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、「教育委員会の事務執行に関する点検評価」（以下「点検評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 点検評価の目的

この点検評価は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックすることにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

### 3 点検評価の対象及び方法

本市教育行政の基本施策は、平成24年3月に策定された立志と忠恕の深谷教育プラン（以下「深谷市教育振興基本計画」という。）に位置づけられています。

このため、深谷市教育振興基本計画に位置づけられた25施策（中項目）を評価単位として、平成27年度の取組について点検評価を実施しました。

点検評価表のうち、総合評価は、「SABC」評価とし、区分の目安として、

S：計画以上に進んでいる

A：ほぼ計画通りに進んでいる。

B：あまり進んでいない。

C：まったく進んでいない。

としました。

この区分の補足説明として、「課題」「評価コメント」欄を設けるとともに、深谷市教育振興基本計画において各施策に設定されている「成果指標」の欄を設け、平成23年度からの実績値の推移を表で示しました。

また、「意見・提言」の欄には、教育に関し学識を有する方（以下「点検評価者」という。）の御意見や御提言の主なものを施策ごとに示しています。

さらに、各点検評価表に重点施策評価表を添付し、各施策における平成27年度の重点施策及び評価を示しています。

#### 4 深谷市教育振興基本計画 施策体系

基本目標（大項目）	施策（中項目）	点検評価表作成課 (評価表取りまとめ課)	重点施策評価表 作成課
I 社会を生き抜く力の育成	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	学校教育課	学校教育課
	未来を切り拓くための確かな学力の育成	学校教育課	学校教育課
	郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課
	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	学校教育課	学校教育課
	高い志をもつキャリア教育の推進	学校教育課	学校教育課
	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	学校教育課	学校教育課
II たくましく生きるための心と体の育成	まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課
	いじめ・不登校の防止	学校教育課	学校教育課
	生徒指導の充実	学校教育課	学校教育課
	人権を尊重した教育の推進	学校教育課	学校教育課
	健康の保持増進	学校教育課	教育総務課 学校教育課
	体力の向上と学校体育活動の推進	学校教育課	学校教育課
III 信頼される学校教育の推進	信頼される教職員の育成	学校教育課	学校教育課
	子どもたちの安心・安全の確保	学校教育課	学校教育課
	学習環境の整備・充実	教育総務課	教育施設課
IV 家庭・地域の教育力の向上	家庭の教育力の向上	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課
	地域の教育力の向上	生涯学習スポーツ振興課	学校教育課 生涯学習スポーツ振興課
V 生涯を通じた学習活動の推進	学習機会の提供と学習活動の支援	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課
	活動施設の整備・充実	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課
	図書館の整備・充実	図書館	図書館
VI 深谷らしい文化の創造	渋沢栄一翁の顕彰	渋沢栄一記念館	渋沢栄一記念館
	伝統文化の保存・継承と活用	文化振興課	文化振興課
	文化・芸術活動の活性化	文化振興課	文化振興課
VII 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課
	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課

# 5 点検評価表及び重点施策評価表

基本目標 I 社会を生き抜く力の育成		I-1							
<b>施策名</b>	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進							点検評価表 作成課	学校教育課
<b>施策の方向性</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園と保育園において家庭との連携・協力した幼児教育を推進するとともに、教職員に対する研修を充実させます。</li> <li>○子どもの発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育を充実するために、小学校との「なめらかな接続」を推進します。</li> <li>○公共施設としての幼稚園、保育園の機能を活用した子育ての支援策の充実に取り組みます。</li> </ul>								
<b>施策に関連する主な取組</b>	○質の高い幼児教育の推進				○幼保一体化への対応				
	○幼稚園教員や保育士の資質向上								
	○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進								
	○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実								
<b>指標名</b>	「子育てひろば」へ参加しての「活動を通しての満足度」の割合								
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	事業に参加してのアンケート調査「非常に満足」と「満足」を合わせたの回答率	89.0%	99.1%	98.6%	100%	100%			
		現状値 (平成23年度)	89%			➔	目標値 (平成29年度)	95%	
<b>平成27年度重点施策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○幼稚園教諭と保育士の交流</li> <li>○幼保小中連携の強化</li> <li>○就園前教育支援事業</li> <li>○(仮称)ふかやこども園の検討</li> </ul>								
<b>平成27年度実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○質の高い幼児教育の推進</li> <li>・幼稚園教諭研修会(4月・5月・7月・8月・1月・2月)を実施した。</li> <li>・幼稚園教諭保育参観研修(7月・9月・10月・11月)を実施した。</li> <li>・幼児教育の推進に係る協議会を2回(10月・11月)開催した。</li> <li>○幼稚園教諭や保育士の資質向上</li> <li>・合同研修意見交換会(3月)を実施した。</li> <li>○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進</li> <li>・幼保小中連絡協議会(9月・3月)を実施した。</li> <li>○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実</li> <li>・就園前幼児教育支援事業「子育てひろば」・・・全体会3回と幼稚園会場27回(9園×3回)を開催した。</li> <li>○幼保一体化への対応</li> <li>・平成29年度4月からのモデル園(おかべ幼稚園及びみらい幼児園おかべ)の実施に向け、保育課と保育サービスや幼保の連携、教育・保育内容の検討を行った。</li> </ul>								
<b>総合評価</b>	<b>A</b>		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる    A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない        C: まったく進んでいない						
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育の質の向上と安定化を図る。</li> <li>・就園前幼児教育支援事業「子育てひろば」の幼稚園会場の検討をしていく。</li> <li>・「子育てひろば」の活動内容の充実を図る。</li> </ul>								
<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育の推進に係る協議会を開催し、公立幼稚園の課題等について、意見交換を行うことができた。</li> <li>・「子育てひろば」に参加した方の満足度は高い。さらに、幼稚園就園を考えている保護者にとっては、園の様子が分かり、園児や教師との関わりを持つことができ、就園に繋がっている。また、未就園児を持つ保護者にとって、同年齢の子どもたちと安心して遊ばせたり、子育てに対する不安や悩みを話したり、横の繋がりを持つことができる場であるとともに、教育研究所の専門員や学校福祉相談員等により子育てのアドバイスや心理面よりサポートを受けられる機会となっている。</li> <li>・(仮称)ふかやこども園のモデル園で実施される内容の検討についても教育委員会と保育課で進めることができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>								
<b>意見・提言</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標である子育てひろばの満足度は、2年連続で100%となっており、素晴らしい。</li> <li>・子育て広場は、素晴らしい体験ができる事業なので、様々な方法で広く参加を呼びかけてほしい。</li> </ul>								



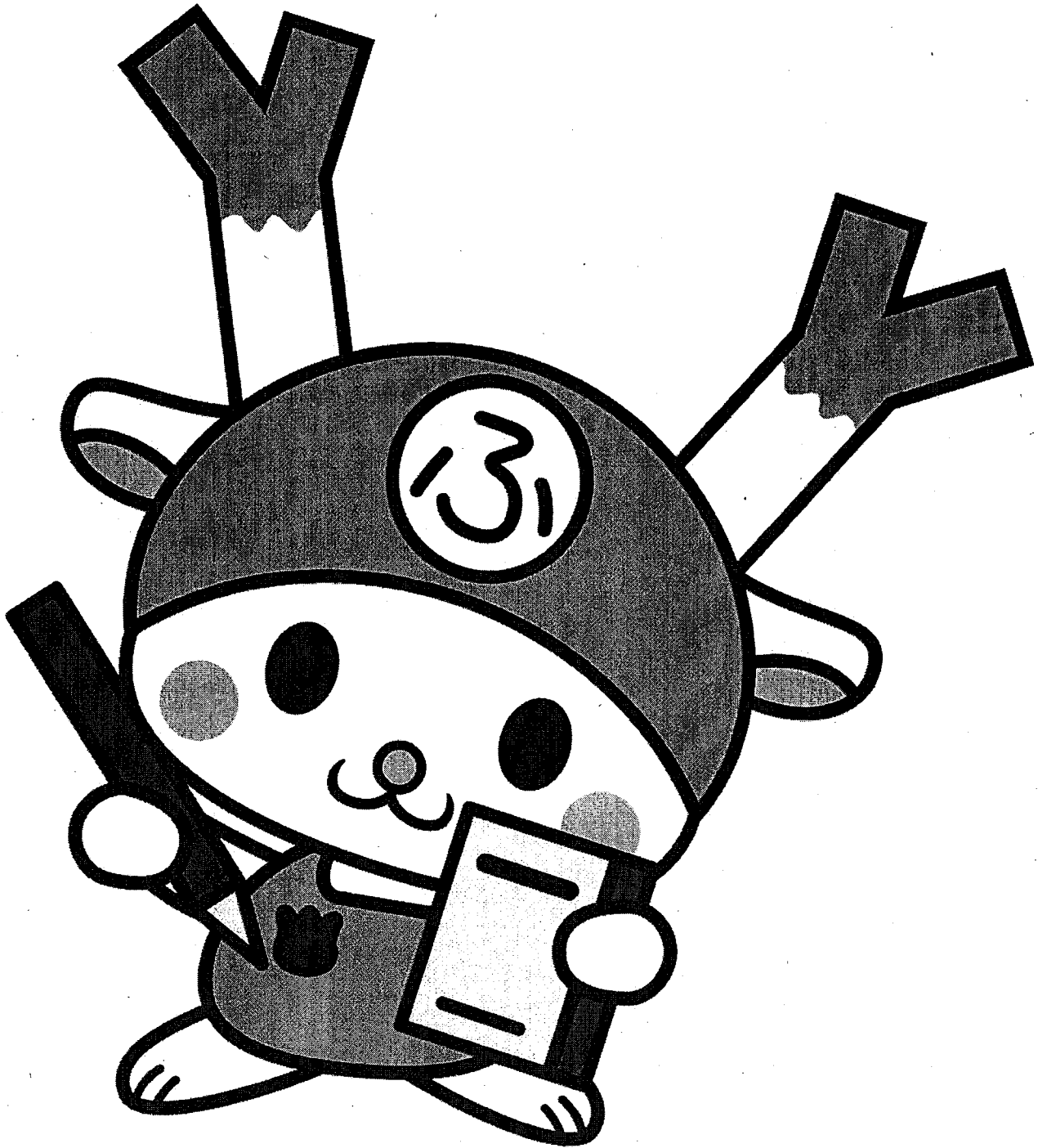
# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	幼稚園教諭と保育士の交流	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	幼稚園教諭と保育士が研修会等で交流を深め、双方の資質向上を図る。		
<b>平成27年度の実績</b>	○市立幼稚園教諭と市立保育園保育士の合同研修会を実施 ・対象…正規職員4・5歳児を担当している教諭・保育士 ・内容…平成28年3月7日(月) 「小学校入学にあたって」 講師 深谷市立教育研究所 専門員 吉井 恵美子 先生 「幼稚園教諭・保育士の意見交換」 人事交流をしての感想や教育・保育の課題や実践方法を協議した。 ・参加者…幼稚園教諭(担任)9名・保育士(担任)5名 計14名		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	実施回数	1回	意見交換をしながら交流を深め、就学前教育について共通理解することができた。幼稚園、保育園勤務状況が違うので、研修日の設定が難しかった。
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
<b>担当課評価</b>	1	幼稚園、保育園の職員間での人事交流も進んでいる。同じ就学前の子ども(4・5歳児)を教育・保育をしていることから現状の様子や課題等を話し合い、共通理解を図ることにより小学校とのなめらかな接続を図るきっかけとすることができた。今後も続けて行きたいことから評価を「現状維持」とした。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	幼保小中連携の強化	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	幼保小のスムーズな連携を図るため、子育ての目安「3つのめばえ」を保育や教育の中で活用した。併せて中学校との連携を強化するため、中学校社会体験チャレンジ等を実施した。		
<b>平成27年度の実績</b>	○取組 ・県から配布された「3つのめばえ」のポスターの掲示、懇談会等での「パンフレット」配布、また、遊びの中で「3つのめばえ」カルタを活用する等、日々の保育の中で「3つのめばえ」を意識しながら教育を行った。 ・小学校の教職員との研修会や連絡会等を行い、就学前までに身につけてほしいことや園での取組について協議する場を設けた。 ・地域の保育園や小・中学校で子ども同士の交流活動や職員間での連携を実施した。		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	子育ての目安「3つのめばえ」の活用率	100%	市内全幼稚園で様々な「3つのめばえ」の資料を活用し、教育活動に取り入れたり、保護者への啓発を行った。
	地域の小学校と連携をしている数	10園	市内全幼稚園で、地域の小学校行事への参加、施設を使用しての交流等、連携を進めている。
地域の保育園・中学校と連携をしている数	保育園 4園 中学校 4園	立地条件等により、小学校のように連携をしていくのはやや難しいが、できる園・学校と工夫をしながら連携をした。	
<b>担当課評価</b>	1	子育ての目安「3つのめばえ」のさまざまな資料を保育や教育の中で活用することにより、小学校入学までに身につけたいことを意識し、幼児期の教育と家庭の教育の充実を図り、小学校へのなめらかな接続につなげた。また、地域の幼稚園・小・中学校との連携による行事参加や教職員のコミュニケーションを図ることができたため、評価を「現状維持」とした。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	就園前教育支援事業	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	公立幼稚園の機能を活用し、全園で「子育てひろば」を開催し、子育て支援の充実を図る。		
<b>平成27年度の実績</b>	<p>【内容】 深谷市在住の2歳から5歳までの未就園児親子を対象に地域の子育て支援の拠点となる公立幼稚園や公共施設(ピクタートル・公民館など)を活用し、親子で遊んだり、親子の交流を深めながら、子育ての不安や悩みの相談を行った。また、入園前に園児とふれあいながら幼稚園の生活を体験し、未就園児親子が安心して入園できるようにした。</p> <p>【実績】 ・市内9園にて実施(明戸幼稚園は参加希望が少なかったため、第2希望の他の幼稚園での参加となった。)また、大寄・豊里幼稚園は、休園のため開催しなかった。 ・全体会3回 幼稚園会場27回(9園×3回) ・地域のボランティア(主任児童委員・保育ボランティア)の協力を得て、活動や援助がスムーズに行えた。</p>		
<b>担当課評価</b>	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	各幼稚園会場における子育てひろば開催回数	27回 (9園)	各園ごとに工夫した活動を行うことができた。
	事業に満足した人の割合	100%	幼稚園での戸外遊びや園児との関わりができてよかったという意見が多く、昨年度と比較してリピーターの方が増えてきた。
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	各幼稚園ごとに工夫を凝らした内容で参加保護者からも好評であった。地域のボランティア、各幼稚園共に、とても協力的に援助してくれ、引き続きお願いしていきたい。また、施設面等で実施内容を検討する必要もある。子育てひろばを通し、同年齢のお子さんを持つ保護者と交流し、横の繋がりがもてたり、子育ての講話を聞いたり、研究所専門員やボランティアと関わったりし、子育ての不安や悩みを相談できる場となっている。また、参加した保護者は、幼稚園就園のきっかけとなっている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	(仮称)ふかやこども園の検討	<b>担当課</b>	教育総務課 学校教育課
<b>概要</b>	(仮称)ふかやこども園のモデル園を選定・実践するため、こども未来部、教育委員会を中心とした関連部署の職員で組織された幼保一体化検討会議及び作業部会での提言を受け、実践に向けた具体的な取り組み内容の検討を行う。		
<b>平成27年度の実績</b>	<p>・幼保一体化検討会議及び作業部会でのモデル園の選定や実践方法の検討結果を受け、保育課、教育総務課及び学校教育課で共同して、実践に向けた具体的な取組について検討した。</p> <p>【モデル園の概要】          &lt;モデル園&gt;          みらい幼児園おかべ及びおかべ幼稚園          &lt;開始時期&gt;          平成29年度4月1日          &lt;実践内容&gt;          ◎幼稚園における保育サービスの向上          (1)3歳児の受け入れの開始          (2)平日の長時間預かりの拡大          (3)長期休業中の預かりの開始          ◎教育・保育内容の連携</p>		
<b>担当課評価</b>	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	実践に向けた取り組み内容の検討回数	23回	作業部会での検討結果を受け、モデル園の実践内容を協議し、具体的な取り組み内容について検討した。
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	3	今後はモデル園の実践に向けた準備をさらに進めていくこととなるが、個別サービスに係る詳細な運用方法や教育・保育の連携内容を具体化していく必要があると考える。よって評価を「拡充・重点化」とした。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			



<b>施策名</b>	未来を切り拓くための確かな学力の育成	<b>点検評価表 作成課</b>	学校教育課
<b>施策の方向性</b>	○学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に応用力や発展的な学力を含めた確かな学力を身に付けさせます。 ○児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組を支援します。 ○児童生徒一人一人に応じた、きめ細やかで質の高い指導を推進します。		
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○「青淵学びの郷づくり」の推進	○きめ細やかで質の高い指導の充実	
	○「教育に関する3つの達成目標」の推進	○教育研究所の資源活用	
	○教科などの指導内容・指導方法の工夫・改善		
	○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進		

<b>指標名</b>	全国学力・学習状況調査							
<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
<b>成果指標</b> 全国学力・学習状況調査における県の平均正答率を上回る項目数 (比較4項目:小6(国語A・B、算数A・B)、中3(国語A・B、数学A・B))	小6	未実施	未実施	1	2	0		
	中3	未実施	未実施	2	4	0		
		<b>現状値 (平成25年度)</b>	小6(1) 中3(2)		<b>➡</b>	<b>目標値 (平成29年度)</b>	小6(4) 中3(4)	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○中学生補習学習運営事業 ○小中一貫教育推進事業 ○学力向上推進事業
------------------------	--

<b>平成27年度 実績</b>	○「青淵学びの郷づくり」の推進 ・中学生補習学習運営事業の実施 全10中学校で実施し、参加者276名 ・延べ258名の大学生ボランティアが中学生の学習を支援した。 ・こころざし深谷国際塾の実施 参加児童生徒数 小学生11名、中学生 9名、合計20名 ・こころざし深谷科学塾の実施 参加児童生徒数 小学生39名、中学生14名、合計53名 ○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進 ・深谷市チャレンジの実施(小6、中3を対象に学習意欲の向上を図るため年2回実施) ・学力旬間の実施(各校において、学力向上を目的とした取組を実施) ・B問題プレチャレンジの実施(小5、中2を対象に、国語や算数・数学の記述的な問題に取り組む) ○きめ細やかで質の高い指導の充実 ・少人数指導事業の実施 市内全小学校19校にアシスタントティーチャー、教科支援エキスパートを各1名ずつ配置した。
----------------------	--

<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	深谷市チャレンジは、今後、内容の充実や実施方法(採点・データ処理)について検討する必要がある。
-----------	---

<b>評価コメント</b>	・平成27年度は、深谷市チャレンジを全小・中学校で実施し、学習意欲に関するアンケート結果では「学習に対する意欲が高まった」と回答した児童生徒の割合が87.9%であった。 ・全小学校19校にアシスタントティーチャー及び教科支援エキスパートを配置したことにより、担任が児童と向き合う時間を確保し、一人一人に寄り添った教育を進めることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	---

<b>意見・提言</b>	・成果指標である全国学力・学習状況調査における県の平均正答率を上回る項目数が小6と中3の両方とも「0」となったことを重く受け止めて、適切な対応をとる必要がある。 ・深谷市チャレンジは児童生徒の学習意欲の向上に、中学生補習学習運営事業は学力の向上に効果的な取組である。引き続き実施してほしい。 ・アシスタントティーチャーの配置により、質の高い指導の充実が図られ、指導力が向上することを期待する。
--------------	--

# 重点施策評価表

重点施策名	中学生補習学習運営事業		担当課	学校教育課
概要	<p>【青淵学びの郷づくり】 学校総合支援員を増員して、ステップアップレッスンを拡充し、生徒の基礎学力の定着を図る。</p>			
平成27年度 の実績	<p>&lt;補習学習の実施&gt; ・学習に不安を感じていたり、経済的な理由で通塾をしていない生徒を主な対象として実施した。 ・対象を中学3年生から中学生全学年に変更し、学習につまづきを感じている生徒へ早い段階から支援を行えるようにした。 ・学校の実態に合わせ、5月～2月までの期間、市内全10校で週2回程度の補習学習を実施した。</p> <p>&lt;指導員の配置&gt; ・学校総合支援員を5名増員し、各中学校に1名ずつ支援員を配置し、主に国語・算数・英語の補習学習の指導を行えるようにした。 ・埼玉工業大学等の大学生が学習支援ボランティアとして補習学習の支援を行った。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	補習学習実施回数	延べ1054回	全学年を対象としたことにより、各中学校での実施回数が大幅に増加した。	
	学習支援ボランティア派遣回数	延べ253回	埼玉工業大学等の協力を得て、各学校に多数の学生が派遣された。	
	深谷市内中学生の高等学校進学率	99.4%	昨年と同様の数値であるが、近年の最高値を維持することができている。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	<p>・各中学校で計画的に補習学習を行うことで、基礎学力の定着が図られ、進学率の向上などに成果があらわれてきている。補習学習の時間の確保や、指導員の確保においては課題が見られるので、学校の実態に合わせて工夫したり、土曜日の実施も検討する必要がある。</p>		
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>				

重点施策名

小中一貫教育推進事業

担当課

学校教育課

概要

9年間を見通したカリキュラムを作成し、授業実践を通して、指導方法の工夫・改善を図る。  
また、小学生と中学生の交流活動、小・中学校の教員の授業参観などを推し進める。

平成27年度  
の実績

<カリキュラム>

○各中学校区において、「小中一貫教育カリキュラム深谷モデル」をもとに、カリキュラムの研究を進める。

・小中一貫教育実施計画書の作成(各中学校区の小・中学校で協議し作成する)

○深谷市立教育研究所協力員の協力を得て、平成28年3月に小中一貫教育カリキュラム「つなぎ教材実践事例集」を作成し、各小・中学校に配布するとともに、教育委員会のホームページに掲載した。

<児童生徒交流>

○各中学校区で、学区内の小学6年生を集めて部活動見学・体験をさせたり、吹奏楽部が小学校を訪問したりするなど、児童生徒交流を促進した。

・岡部中学校…4つの小学校の6年生全員が中学校に集まり、中学生の授業を参観したり、一緒に掃除をしたりするなどの1日体験授業を行った。

・深谷中・南中学校…小学校の親善運動会に向け、中学校の陸上部の顧問の教員が、4つの小学校の6年生を一堂に集めて、走り幅跳びやリレー等について指導する陸上教室を開催した。

<教員研修>

○小中一貫担当者会議を開催した。(6月)

・小中一貫教育実施計画書をもとに各中学校区での小中一貫教育の取組を共有する。

・「つなぎ教材集」の活用について

○はつらつ先生、長期研修教員、教育研究所指導委員の授業を広く市内教員に公開する「こころざし深谷教師塾」を実施した。

・実施校 17校(学校訪問に合わせて実施)

・参加教員数 58名

指標名	実績値	指標別コメント
児童生徒交流を実施した中学校区	10校	市内全10中学校区で、児童生徒の交流活動を実施することができた。
小中一貫教育担当者会議の開催	1回	小中一貫教育実施計画書に基づいた年間計画についての話し合いや各中学校区の取組について共有することができた。

評価区分	評価コメント
1	川本中学校区3校で平成24年度・平成25年度に取り組んだ研究成果を、市内10中学校区に広めようと平成26年度からスタートした小中一貫教育推進事業であるが、学力の向上、不登校児童生徒数の減少など、着実な成果も見られた。 引き続き、「小中一貫教育カリキュラム深谷モデル」や「つなぎ教材集」、「つなぎ教材実践事例集」等を活用し、各中学校区において、カリキュラムの研究、児童生徒の交流、教員間の交流等を進めていきたい。

評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)

重点施策名	学力向上推進事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】深谷市チャレンジ(算数・数学、英語)を実施し、学習意欲の向上を図る。			
平成27年度 の実績	○深谷市チャレンジ 深谷市チャレンジは、学力の重要な要素の1つである「学習意欲」の向上を目指し、目標をもって学習に取り組むことができる児童生徒の育成を図ることを目的として実施する。 ※平成26年度は、市内全小・中学校(小学校19校、中学校10校)で実施。			
	【対象学年・教科】 小学校第6学年…算数 中学校第3学年…数学、英語			
	【実施時期】 小学校 第1回 6月中旬 第2回 8月下旬 中学校 第1回 8月下旬 第2回 10月上旬			
	【成果】第2回深谷市チャレンジ実施後の児童生徒アンケート結果より 学習に対する意欲が高まった(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合 小学校(算数)89.8%、中学校(数学)86.6%、(英語)87.4%			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	深谷市チャレンジ実施校	100% (29校/29校)	平成27年度は全小・中学校で実施	
	深谷市チャレンジ実施後児童生徒アンケート	小:89.8% 中:87.0%	アンケート結果より、「学習に対する意欲が高まった」と回答した児童生徒の割合。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	平成27年度も、市内全小中学校で、深谷市チャレンジを実施できた。 平成28年度は、対象を中学3年生のみとするよう一部変更をした。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>施策名</b>		郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進				<b>点検評価表作成課</b>		学校教育課	
<b>施策の方向性</b>		○伝統と文化を尊重し、日本人・深谷人としての誇りを持ち、わが国と郷土深谷を愛する態度を養います。 ○国際理解教育を推進するとともに、小学校外国語活動においてコミュニケーション活動の更なる充実を図り、早期外国語教育を推進します。併せて、中学校への「なめらかな接続」を図り、中学校の英語教育を充実します。 ○帰国・外国人児童生徒等への日本語指導など、学校や社会生活への適応を図るために必要な支援を行います。							
<b>施策に関連する主な取組</b>		○伝統と文化を尊重する教育の推進							
		○国際性を育む教育の推進							
		○小学校段階からの外国語活動の推進							
		○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実							
<b>指標名</b>		生徒の英語学習に対する積極的な態度							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値	
	授業で積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしているかという質問に対する回答率	76.0%	82.2%	84.7%	86.4%	86.6%			
		現状値 (平成23年度)	中学生 76%		➡	目標値 (平成29年度)	中学生 85%		

<b>平成27年度重点施策</b>	○国際化教育推進事業 ○小学校高学年の英語教科化に向けた研究の推進	
<b>平成27年度実績</b>	○国際性を育む教育の推進 ・市内各小・中学校に外国語指導助手(ALT)16名を配置し、小学校3年生～中学校3年生が、週に1回、ALTとの授業を受けた。 ・夏休み子ども英会話教室から英語王国に事業内容の変更をし、小学校3～6年生が、4日間で延べ196名参加した。 ○小学校段階からの外国語活動の推進 ・文部科学省から教育課程の特例(小学校3・4年生から外国語活動を行う)を受け、小学校3年生から週1回外国語活動を実施した。 ・小学校高学年の英語教科化に向け、拠点校を設け、教育研究開発を行った。意識調査において、「英語の学習が楽しい」と答えた小学生が90%を超え、「授業中積極的に英語を使っている」生徒が85%を超えるなどの成果が明らかになった。 ・深谷市英語教育小中一貫モデルプランを策定し、英語教育の充実を図った。 ○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実 ・日本語指導を必要とする外国籍児童のために、市費日本語指導員(7名)を、小学校9校、中学校4校に配置した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	文部科学省が提唱するグローバル化に対応した英語教育改革実施計画に基づき、2020年を見据え、英語教育において多くの変革が求められている。特に小学校5・6年生での教科化や、それに伴う時数の確保、指導者の指導力向上、小中一貫のカリキュラムの構築など様々な課題が挙げられている。	
<b>評価コメント</b>	・深谷市の教育プランに基づいて様々な取組を実施した結果、郷土の伝統と文化を尊重する教育の推進、国際性を育む教育の推進、小学校段階からの外国語活動の推進、帰国・外国人児童生徒等への教育の充実を十分図ることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・小学校3年生からの早期の外国語活動は、学力向上のためには効果的である。今後も続けてほしい。 ・生きた英語を学び、英会話ができるようになるために、外国語指導助手(ALT)をより多く派遣してほしい。
--------------	---



# 重点施策評価表

重点施策名	国際化教育推進事業	担当課	学校教育課
概要	<p>【青淵学びの郷づくり】 全小・中学校に外国語指導助手(ALT)を派遣し英語教育等の充実を図る。</p>		
平成27年度の実績	<p>○外国語指導助手の配置            【採用人数】 16名            【雇用形態】 労働派遣契約            【雇用期間】 第1期(平成27年4月～6月) 第2期(平成27年10月～平成28年3月)            【実施状況】</p> <p>○ 市内全公立小・中学校に、学校規模に応じて、週当たり1～5日ALTを派遣した。            ○ 小学校3～6年生は、週に一度の外国語活動の時間に、担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを配置した。中学校では、全ての生徒が週に一度以上は教科担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを派遣した。            ○ 本物の英語に触れることで、子どもたちの国際性が高まり、英語によるコミュニケーションを図ろうとする意欲が出てきている。            ○ 国も、義務教育段階の英語教育の推進を図っている。</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	ALTの年間授業時間の目標値を達成した割合	86.8%	目標の授業時間を10,404時間としていたが、9,027時間の授業を行ったため、86.8%の達成割合となった。
	外国語(英語)の学習を楽しんでいる児童の割合(小3～小6)	94.3%	学年によって割合は違うが、調査対象全学年で90%を超えている。全国的なデータと比較すると、深谷市では英語好きの子どもが非常に多い。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	ALTによる授業を必要とする学級数(279学級、29校)から、最も効率よく運営するための最少人数(16名)を算出し、全ての学校に派遣することができた。また、英語好きな児童生徒が非常に多いことから、ALTの存在と彼らを活用する学級担任の指導技術がうまくかみ合っていると見える。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	小学校高学年の英語教科化に向けた研究の推進	担当課	学校教育課									
概要	【青淵学びの郷づくり】 小学校3年からの早期外国語教育を推進し、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の素地を養い、国際性を育む。											
平成27年度の実績	<p>○教育課程の特例 文科省から研究開発の指定を受け、教育課程の特例を設けている。このため、他の自治体と違い、深谷市では小学校3年生から週1回、外国語活動を行った。</p> <p>○深谷市英語教育一貫教育プランの作成 市内全小・中学校の標準的な指導モデルを作成し、各学校の特色を生かしながら外国語(英語)の授業を行った。</p> <p>○教科化準備委員会の実施 各小学校から1名の教員を委員として招集し、教科化に向けての取組推進のための協議を行った。</p> <p>○指導法研究会の開催 ・市内全小学校教員を対象として、小学校外国語活動指導法集中研究会を1回、2日間実施した。(平成22年度からの継続事業)</p> <p>・市内を5ブロックに分けて拠点校を設け、授業研究会を実施している。小・中学校教員が、校種を越えて授業を参観し、研究協議を行う中で、教員の立場からの小中連携を深めるとともに、指導法の改善を図った。</p> <p>○こころざし深谷国際塾の実施 渋沢栄一翁の心を受け継ぎ、次代を担う人材育成を目的としている。対象は小学校5年生から中学校2年生までの希望者。平成27年度は、小学生15名、中学生19名、合計34名が参加した。JICA(国際協力機構)と連携して実施している深谷市独自の取組である。</p> <p>○英語王国の実施 体験を通して英語を楽しく学習することを目的としている。対象は小学校3～6年生の希望者。夏季休業期間中に4日間実施し、平成27年度は、延べ196名が参加した。</p> <table border="1" data-bbox="316 1189 1420 1509"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合</td> <td>87.7%</td> <td>全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近い児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。</td> </tr> <tr> <td>積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒(中1)の割合</td> <td>89.7%</td> <td>小学校6年の時よりも若干数値が上がっている。小中一貫の視点から、小・中学校の接続がうまくいっていると言える。</td> </tr> </tbody> </table>			指標名	実績値	指標別コメント	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合	87.7%	全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近い児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒(中1)の割合	89.7%	小学校6年の時よりも若干数値が上がっている。小中一貫の視点から、小・中学校の接続がうまくいっていると言える。
指標名	実績値	指標別コメント										
積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合	87.7%	全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近い児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。										
積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒(中1)の割合	89.7%	小学校6年の時よりも若干数値が上がっている。小中一貫の視点から、小・中学校の接続がうまくいっていると言える。										
担当課評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価区分</th> <th>評価コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ブロック毎に研究を進め、研修を行うことで指導力の向上が図られるとともに、教科化準備委員会の取組を踏まえ、指導要領改訂に向けての小学校の指導の改革が進められてきている。今後も文部科学省の動向をとらえながら、小学校の指導において、適切な改善を加えられるようにしていく必要がある。</td> </tr> </tbody> </table>	評価区分	評価コメント	1	ブロック毎に研究を進め、研修を行うことで指導力の向上が図られるとともに、教科化準備委員会の取組を踏まえ、指導要領改訂に向けての小学校の指導の改革が進められてきている。今後も文部科学省の動向をとらえながら、小学校の指導において、適切な改善を加えられるようにしていく必要がある。							
評価区分	評価コメント											
1	ブロック毎に研究を進め、研修を行うことで指導力の向上が図られるとともに、教科化準備委員会の取組を踏まえ、指導要領改訂に向けての小学校の指導の改革が進められてきている。今後も文部科学省の動向をとらえながら、小学校の指導において、適切な改善を加えられるようにしていく必要がある。											
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)												



基本目標Ⅰ 社会を生き抜く力の育成

I-4

<b>施策名</b>		夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進				<b>点検評価表 作成課</b>		学校教育課	
<b>施策の方向性</b>		○子どもたちの科学技術に関する興味・関心を高め、豊かな科学的素養や思考力を育成します。 ○児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについての理解を深めます。 ○将来にわたって豊かな暮らしを実現する持続可能な社会の構築を目指した環境教育を推進します。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○科学技術教育の推進							
		○情報教育の推進							
		○環境教育の推進							
		○社会的課題に対応する教育の充実							
<b>指標名</b>		授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	国の行うICT調査における教員の指導力についての状況	87.7%	91.3%	89.5%	89.2%	90.5%			
		現状値 (平成22年度)		84%		→		目標値 (平成29年度)	
								100%	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○小・中学校ICT整備事業 ○情報モラル教育の推進	
<b>平成27年度 実績</b>	○科学技術教育の推進 ・市内全小・中学校において、小学校6年生及び中学校3年生を対象に、風力・太陽光発電に関する啓発授業を実施することができた。 ○情報教育の推進 ・小学校4校、中学校2校の教師指導用タブレットの入替を行い、ICTを活用して授業等ができる環境を充実させた。 ・小学校1校、中学校2校のコンピュータ室の機器の入替を行い、ハイブリッド型PCを導入し、様々な場面でパソコンを活用して授業を行える環境を充実させることができた。 ・中学校5校の普通教室のプロジェクタの入替を行い、各教科で教科書や様々な教材を拡大して提示できる環境を充実させることができた。 ・ICTを活用した授業が小・中学校とも、およそ2時間に1回行われた。 ○社会的課題に対応する教育の充実 ・校務支援システムを更新し、全ての小・中学校において指導要録と出席簿の電子化が定着し、全校で実施されている。 ・小・中学校の教職員を対象に、情報モラルに関する研修、21世紀型スキルの育成についての研修を行った。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	文部科学省の教育の情報化ビジョン(H23.4)に示された21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末、校務支援システム等)の実現に向け、今後も機器の入替に伴う整備を継続していく必要がある。	
<b>評価コメント</b>	・コンピュータ教室、普通教室、職員室のICT機器の整備については、見直しを行い、少ない機器を有効に活用できるようハイブリッド型PCの導入を進めた。 ・臨時的任用教員が多くなっていることで指標はやや下がっているが、研修を充実させることにより、教職員が授業でICTを活用する場面は増えており、小・中学校ともに、およそ2時間に1回の割合でICTを活用した授業が行われている。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・ICT機器については県内でもトップクラスの整備をしており、また、2時間に1回はICTを活用した授業を行っており、素晴らしいことである。このまま継続してほしい。 ・社会に出た際に、すぐにコンピュータが駆使できるような、実用的なコンピュータ教育を期待する。
--------------	--

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	小・中学校ICT整備事業		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】 ICT環境の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の向上を図るとともに、教師が教科指導等においてICTを活用することにより、学習活動を充実させる。さらに、教職員用コンピュータに校務支援システムを導入し、教員の負担軽減による子どもと向き合う時間を確保する。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校4校、中学校2校の教師指導用コンピュータの入替を行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。</li> <li>・小学校1校、中学校2校のコンピュータ室の機器の入替を行い、ハイブリッド型PCを導入した。</li> <li>・中学校5校の教室用プロジェクタの入替を行った。</li> <li>・各小・中学校ホームページを平均1日1回以上の頻度で更新し、アクセス数が平均1日1,400件を超えた。</li> <li>・各小・中学校のホームページに「緊急連絡サイト」を活用し、降雪等の緊急時に活用した。</li> <li>・ICTを活用した授業が小中学校とも、およそ2時間に1回行われた。</li> </ul>			
		<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
		PC1台あたりの児童生徒数	4.7人/台	PC整備率は、県内40市の中でトップクラスの整備率となっている。県は9.3人/1台である。
		授業中にICTを活用して指導できる教員の割合	90.5%	普通教室のICT環境を整備後、研修等を実施し、高い水準を維持している。県は69.5%である。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	ハイブリッド型PCなどの導入により、PCの活用幅が広がった。文科省の教育の情報化ビジョン(H23.4)に示された21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末)の実現に向け、今後も機器の入れ替えに伴う整備を継続していくとともに新しい機器にあわせ無線LAN環境の整備をしていく必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	情報モラル教育の推進		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	児童生徒に情報モラルについての正しい判断力を身につけさせるための、情報モラル教育を充実する。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度新たに深谷市の教職員となった新任教員及び転入教職員等に「情報モラルについて」と題し、児童生徒が正しい判断力を身につけることができるよう人権教育研修を行った。</li> <li>・携帯電話の所持率やトラブルの増加傾向をうけて、全小・中学校の全児童生徒及び保護者を対象として、非行防止教室を実施し、ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導を行った。</li> </ul>			
		<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
		情報モラル教育の実施状況	100%	予定された教職員に対する研修及び児童生徒への指導を行うことができた。
		非行防止教室保護者参加人数	2,193人	平成26年度は1,487人であったことから、毎年、継続的に保護者への啓発がなされているので、成果につながっている。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	教職員の研修、児童生徒への指導、保護者の啓発等、予定通り実施することができた。携帯電話の普及率やネットトラブルの現状から、今後も各事業を継続していくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標 I 社会を生き抜く力の育成

I-5

<b>施策名</b>	高い志をもつキャリア教育の推進	<b>点検評価表 作成課</b>	学校教育課
<b>施策の方向性</b>	○小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を推進します。 ○将来働くことについて意欲や関心が持てるように、学校・地域・企業などが一体となって、実際の職場での体験活動を推進します。		
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○発達段階に応じたキャリア教育の充実 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進 ○職場体験活動の充実		

<b>成果指標</b>	<b>指標名</b>	「将来の夢や目標をもっている」生徒の割合						
	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	「将来の夢や目標をもっている」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合を併せた回答率	未実施	未実施	76.6%	79.5%	78.1%		
		現状値 (平成25年度)		中学生 76.6%	➡	目標値 (平成29年度)		中学生 80%

<b>平成27年度 重点施策</b>	○小・中学校のキャリア教育の充実 ○校種間のなめらかな接続 ○体験を重視したキャリア教育の推進
------------------------	---

<b>平成27年度 実績</b>	○発達段階に応じたキャリア教育の推進 ・小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。 ・全小学校で1/2成人式を4年生で実施し、中学2年生での立志式等へとつなげた。 ・産業祭への参加(深谷小学校6年生が地域での勤労、交流、体験を通しての発表を行った。また藤沢小学校・上柴中学校等は自校で作成した商品を販売する体験学習を行った。) ・中学校1年生での「職業調べ」、2年生での「立志式」等、3年生での「高校説明会への参加」といった活動を全校で実施した。 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進 ・各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。 ・中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。) ○職場体験活動の充実 ・中学生社会体験チャレンジの実施(全中学校が、2年生において実施した。事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる推進委員会を2回実施した。)
----------------------	---

<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	・小学校段階、中学校段階、それぞれキャリア教育の取組が行われているが、それぞれの取組に結びつけられるよう意識した指導が必要である。小・中学校の連携を図り、小中一貫の視点を持ち、今後更なる工夫をしていくことが必要である。 ・社会体験チャレンジにおいては、多様性のある事業所の確保が課題となっている。
-----------	---

<b>評価コメント</b>	・小学4年で1/2成人式、中学2年生で立志式等を市内全校で実施した。 ・中学生社会体験チャレンジ事業(職場体験学習)では、推進委員会での情報交換や市内の商工会等の協力を得て、より円滑に生徒の希望に応じた職場体験が実施できた。平成27年度は368箇所の受け入れ事業所に協力をいただき、計画通り安定した取組とすることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	---

<b>意見・提言</b>	・1/2成人式、立志式は児童生徒の心の成長に繋がっており、素晴らしい取組である。 ・中学校社会体験チャレンジは、職場体験ができ、生徒の将来に繋がる良い事業である。 ・中高連絡協議会は、生徒の中学時代の様子を高校に伝える大事な機会なので、更なる充実を期待したい。
--------------	--

# 重点施策評価表

重点施策名	小・中学校のキャリア教育の充実		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 小学校における1/2成人式、中学校における立志式等を通して、児童生徒の夢やこころざしを育む。			
平成27年度 の実績	<p>〈発達段階に応じたキャリア教育の推進〉</p> <p>①4年生で1/2成人式を全校で実施した。          ②産業祭へ参加(深谷小学校6年生が地域での勤労、交流、体験を通しての発表を行った。)          ③中学校1年生での「職業調べ」、2年生での「立志式」等、3年生での「高校説明会への参加」といった活動を全校で実施した。</p> <p>〈小・中・高における「なめらかな接続」の推進〉</p> <p>①各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。          ②中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。)</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	小学校における1/2成人式の実施率	100%	小学校全校で実施し、自己の成長について見つめ直す機会とすることができている。	
	中学校における立志式等の実施率	100%	中学校全校で実施し、将来について考えを深め、自立・自律にを促す機会となっている。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	1/2成人式、立志式等を市内の全小・中学校で実施し、自己の夢やその実現に向けてのこころざしを持たせるための機会とすることができた。また、中高連絡協議会の実施により、生徒一人一人に適した進路指導をするための一助とすることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	校種間のなめらかな接続	担当課	学校教育課
概要	<p>全中学校区で小中一貫教育を推進し、中1ギャップの解消を図るとともに、中高連絡協議会を実施し、中高の連携を図る。また、市内幼稚園、保育園及び小・中学校関係者による研究協議を行い、幼保小中のなめらかな接続と教育の充実・発展を図る。</p>		
平成27年度の実績	<p>&lt;小・中・高における「なめらかな接続」の推進&gt;  ○各中学校区において、9年間の学びと育ちの連続性を重視した小中一貫教育の実施（小中一貫教育推進事業の実施【再掲】）  ・カリキュラムの研究・児童生徒の交流・教員間の交流・小中連携シートの活用等  ○「中高連絡協議会」の開催（4回）  ・深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催した。（対象：各中学校長、各高等学校長を基本とする）  ・進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。  ○小学校教科支援エキスパート（全小学校）、小学校理科支援員（全小学校）の配置  ・小学校における授業の一部で専科指導を実施することにより、小学校（学級担任制）から中学校（教科担任制）への「なめらかな接続」を図った。</p> <p>&lt;幼・保・小・中における「なめらかな接続」の推進&gt;  ○幼・保・小・中連携推進協議会の開催（2回）  中学校区10ブロックに分かれ分科会を行い、幼・保・小・中連携について協議した。（対象：各幼稚園・保育園の園長又は主任、各小・中学校の管理職等）  ・9月 … 講義：星美学園短期大学専任講師 太田研先生  「早期からの教育相談支援体制の構築」  ・3月 … 講義：新井由美子指導主事  「合理的配慮について～障害者差別解消法を受けて～」</p>		
		実績値	指標別コメント
	中学校不登校生徒の割合	1.25%	平成27年度の不登校生徒数は51名であり、平成26年度の割合1.24%と比較すると横ばいである。
	中高連絡協議会の開催回数	2回	なめらかな接続のため、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会をそれぞれ2回ずつ開催した。（1回目…6・7月、2回目…10月）
	幼・保・小・中連携協議会の開催回数	2回	なめらかな接続のため、年度の前半（夏季休業中）と後半（年度末）に協議会を実施した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	<p>幼・保・小・中・高のなめらかな接続の推進により、不登校児童生徒の削減や中1ギャップの解消などが図られた。  また、中高連絡協議会の開催により、市内中学校出身の生徒に関する情報交換や本年度の入試状況等についての、共通理解を図ることができた。  更に幼・保・小・中連携協議会の開催により、地域で育つ子供の保育と教育について共通理解を図ることができた。</p>	
<p>評価区分の考え方（1：現状継続 2：見直して継続 3：拡充・重点化 4：事業達成により終了 5：廃止を検討）</p>			



重点施策名	体験を重視したキャリア教育の推進		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】職業にふれる体験活動を通して、児童生徒に夢をもたせ、社会的・職業的自立に向けた力を育てる。			
平成27年度 の実績	<p>〈体験活動の充実〉</p> <p>①中学生社会体験チャレンジの実施(全中学校が、2年生において実施した。事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる社会体験チャレンジ推進委員会を2回実施した。)</p> <p>②小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。</p> <p>③産業祭への参加(藤沢小学校・上柴中学校等は、自校で作成した商品を販売する体験学習を行った。)</p>			
	指標名		実績値	指標別コメント
	社会体験チャレンジの参加人数		1,377人	市内中学2年生全員を対象として実施。
	社会体験チャレンジの参加割合		100%	全生徒参加
協力事業所数		368事業所	事業所数も毎年安定して協力している。	
担当課 評価	評価区分		評価コメント	
	1		望ましい職業観・勤労観を育成するために、発達の段階に応じた取組がなされた。中学生で行う社会体験チャレンジは、深谷商工会議所やふかや市商工会等の協力を得て、多様な職場体験を行うことができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>施策名</b>	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進		<b>点検評価表 作成課</b>	学校教育課			
<b>施策の方向性</b>	○各学校において、個別の教育的支援が必要な児童生徒に対する支援体制を整えます。 ○特別支援学級や通級指導教室について、ニーズを把握しながら、新設、増設等の準備を進めます。						
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○特別支援教育体制の整備・充実			○他機関との連携			
	○就学支援・相談の充実			○支援籍学習の推進			
	○特別支援教育の視点に立った指導の充実			○教育研究所の機能の充実			
	○特別支援補助員の活用						
<b>指標名</b>	通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率						
<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
「特別支援教育の推進」について効果を検証するため、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対する個別の教育指導計画作成率	52.1%	57.7%	64.8%	80.0%	80.0%		
	現状値 (平成23年度)		52%	→		目標値 (平成29年度)	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実 ○早朝からの就学支援・就学相談の充実 ○ふっかちゃんi(愛)サポート事業 ○支援籍学習推進事業						
<b>平成27年度 実績</b>	○特別支援教育体制の整備・充実 ・ふっかちゃんi(愛)サポート事業により、iPadを中学校特別支援学級19学級に2台ずつ合計38台整備した。 ○就学支援・相談の充実 ・就学支援委員会を4回、小委員会を2回実施した。 ・巡回相談を68回(幼稚園10回 小学校38回 中学校20回)、学級学校支援相談を38回実施した。 ○特別支援教育の視点に立った指導の充実 ・特別支援教育コーディネーター合同研修会(通常の学級担任研修会含む)を3回、巡回相談員研修会を1回実施した。 ・特別支援教育担当者研修会を1回、特別支援教育担当者経験3年以下研修会を2回実施した。 ○特別支援補助員の活用・・・特別支援補助員研修会を1回実施した。 ○教育・福祉や医療機関・療育機関等との連携・・・78回実施した。 ○支援籍学習の推進・・・通常学級支援籍学習は51名、特別支援学級支援籍学習は5名の参加があった。 ○教育研究所の機能の充実・・・WISC(知能)検査実施件数は154件実施した。						
<b>総合評価</b>	<b>A</b>		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない				
<b>課題</b>	・通常の学級担任及び担当者の特別な教育的支援の必要な児童生徒への指導力の向上がさらに必要である。 ・障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた教育的支援を継続的に行うために、小学校から中学校、中学校から高校にそれぞれなめらかに移行できるよう、支援をさらに充実させていくことが必要である。						
<b>評価コメント</b>	・子どもの教育的ニーズに合わせた多様な学びの場(支援籍学習や特別支援学級の弾力的な運用、通級指導教室など)を活用することにより、子ども一人一人の教育的ニーズに合った教育的支援に取り組む体制が整ってきている。 ・成果指標である通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対する個別の教育指導計画の作成率が27年度も80%となった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。						

<b>意見・提言</b>	・成果指標である通常学級に在籍する障害のある児童生徒の個別指導計画が2年続けて80%を超えたことは、評価できる。 ・ふっかちゃんi(愛)サポート事業で、iPadを特別支援学級へ配置したことは、素晴らしい取組である。今後も継続してほしい。 ・特別支援学級に通う児童生徒の親同士がコミュニケーションを図れる機会を設けることを検討してほしい。						
--------------	--	--	--	--	--	--	--

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた個別の教育支援計画や教材教具等の整備の充実を目指します。		
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級及び通常の学級に在籍する児童生徒で特別の教育的支援を必要とする児童生徒の教育支援計画等の作成をした。</li> <li>・幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、支援の目標と方法について検討し、幼稚園、小・中学校内での支援を行う巡回相談を実施した。</li> <li>・特別な教育的支援が必要な児童生徒に対し、各小・中学校における特別支援学級への弾力的な運用の活用をした。</li> <li>・教職員研修を次のとおり実施した。 特別支援教育コーディネーター等合同研修会 3回 特別支援教育担当者研修会・・・経験3年以下研修会 2回、担当者研修会 1回</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	通常の学級で障害のある児童生徒の個別の教育支援計画作成率	80%	通常の学級に在籍している障害を持った児童生徒の一人一人の教育的ニーズに合わせた教育支援計画を作成する。
	巡回相談実施回数(幼・小・中の合計)	68回	幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、支援の目標と方法について検討し、園・校内での支援体制を整備する。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	巡回相談や教職員研修を行い、発達障害等を理解するとともに、支援方法を習得した。指導力の向上に生かし、児童生徒の一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実が図られている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	早期からの就学支援・就学相談の充実	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	特別支援教育の早期支援に向け、研究主題を「教育・福祉の連携を生かした早期からの教育相談・支援体制づくり」とし、ヨコ(教育・福祉)とタテ(幼保小中高)の連携を生かした0歳から15歳までの子供を一貫して育てる支援体制づくりを行う。		
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヨコ(教育・福祉)の連携として</li> <li>・教育・福祉連携推進委員会による各関係機関との連携をおこなった。</li> <li>・就学支援の充実や就学を迎える保護者の集い、保護者支援の充実(保護者講演会・教育相談)、深谷市の支援マップの作成及びサポート手帳の活用等を行った。</li> <li>○タテ(幼保小中高)の連携として</li> <li>・幼保小中連絡協議会の開催、小中連携巡回相談、ケース会議の充実及び中高連絡協議会等開催した。</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	就学を迎える保護者の集い	40名	昨年度と比較すると4名増加しており、徐々に浸透してきている。
	早期支援コーディネーターの活用	2名	27年度は早期支援コーディネーター2名を県教育委員会が配置し、主に市内小中学校の巡回相談を行った。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	早期からの子供支援を行うためには、就学前から本人・保護者を取り巻く幼稚園・小・中学校・各関係機関等との連携が基盤となっている。ヨコとタテの連携を強化するとともに、子どもの教育的ニーズを把握し、寄り添いながら支援を行うことができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	ふっかちゃんi(愛)サポート事業	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】「ふっかちゃん子ども福祉基金」を活用し、特別支援教育の支援体制の整備の充実を図る。主にiPad等の機器を整備し、障害の状態や発達の段階等に応じて活用することにより、学習や生活上の困難をサポートし、学習指導の効果を高めることを目的とする。		
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校19校のすべての特別支援学級にiPadを2台ずつ、合計84台整備し、授業での活用を行った。</li> <li>・中学校1校において特別支援学級の増設があったため、合計2台整備した。</li> <li>・普通の授業でiPadを活用できるよう小学校の特別支援学級担任を対象としたiPad導入研修を行った。</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	学習効果についての満足度	97%	ほとんどの特別支援学級の教員が「効果あり」と回答している。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	iPadを活用した学習活動により、興味・関心が高まったり、学習内容の理解が深まったりと児童生徒に変容が見られた。また、今後は、今年度の成果をふまえ、活用方法の研究や特別支援学級担任への研修の充実などを進めていく必要がある。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	支援籍学習推進事業	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	インクルーシブ教育(障害のある人とない人が同じ場で学ぶ)を推進し、こどもの教育的ニーズに合わせた教育支援をおこなうため、多様な学びの場として、特別支援学校や通常の学級での学習を推進します。		
<b>平成27年度の実績</b>	<p>○特別支援学校支援籍: ・小・中学校の児童生徒が、特別支援学校の学級に入り、学習を行った。</p> <p>○通常学級支援籍: ・特別支援学校の児童生徒が、通常の学級に入り、学習を行った。</p>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	特別支援学校支援籍者数	5名	通常学級の児童生徒が、深谷はばたき特別支援学校、本庄特別支援学校、熊谷特別支援学校で学習を行った数は、昨年度は10名であったが、今年度は5名であった。
	通常学級支援籍者数	51名	深谷はばたき特別支援学校、本庄特別支援学校、熊谷特別支援学校の児童生徒が通常学級で学習を行った数は昨年度は49名であったが、今年度は51名であった。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	多様な学びの場を提供することにより、一人一人の教育的ニーズに合わせた教育的支援を行うことができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			



<b>施策名</b>	まごころと思いをはぐくむ教育の推進		<b>点検評価表 作成課</b>	学校教育課				
<b>施策の方向性</b>	○「青淵学びの郷づくり」を推進します。 ○地域の特色を生かし、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進します。 ○子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むため、地域の特色を生かした体験活動の充実を推進します。 ○学校における子どもたちの豊かな読書活動を推進します。 ○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)を推進します。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○「青淵学びの郷づくり」の推進		○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)の推進(再掲)					
	○道徳教育の推進							
	○体験活動の推進							
	○読書活動の推進							
<b>指標名</b>	「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般応募作品数の増加							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内の在勤・在住者対象の、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般の部への応募作品数 ※()は高校生・大学生を除く一般数	589作品 (一)	1,349作品 (130)	1,342作品 (149)	1,264作品 (114)	862作品 (80)		
		現状値 (平成23年度)	589作品		➡	目標値 (平成29年度)	1,000作品	
<b>平成27年度 重点施策</b>	○深谷の子「6つの誓い」の活用 ○「まごころ先生」派遣事業 ○「まごころ訪問」の実施 ○子ども読書活動の推進							
<b>平成27年度 実績</b>	○「青淵・学びの郷づくり」の推進 ・「青淵・学びの郷づくり」心の教育推進協議会を実施した。(2月4日) ・「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙文の募集(応募総数12,246点)と表彰、作品集(第8集)の作成、配布 ○道徳教育の推進 ・「渋沢栄一こころざし読本」を、すべての小・中学校で活用した。 ・市内全小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。(小学校26回、中学校20回) ・「青淵・こころざし歳時記」を市内小学校1年生及び4年生児童、中学校1年生生徒に配布し、朝の読書活動など教育活動で活用した。 ・「青淵・こころざし歳時記」は、図書館、公民館等公共施設に設置するとともに、HPに掲載した。 ○まごころ訪問の実施 ・市内全小学校でまごころ訪問を実施した。 ○読書活動の推進 ・市内全小・中学校に司書教諭を発令し、学校図書館補助員を配置した。 ・1人当たりの年間貸出し冊数 小学校46.2冊、中学校6.1冊。 ○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)の推進(再掲) ・小・中学校合わせて108項目中、108項目全てにおいて達成率80%を上回った。							
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない						
<b>課題</b>	・「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」における、高校生、大学生、一般の応募数を増やすことが必要である。 ・子どもたちの心の教育を充実させるために、引き続き、「渋沢栄一こころざし読本」及び「まごころ先生」の積極的な活用とともに、道徳の時間の指導力の向上を図ることが必要である。							
<b>評価コメント</b>	・「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、「渋沢栄一こころざし読本」及び「まごころ先生」の積極的な活用のほか、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙作文の募集、「まごころ訪問」などを積極的に行い、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図れた。 ・成果指標については、目標値の1,000作品を超えることができなかった。今後は高校生や大学生を除く一般作品の数を増やしたい。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
<b>意見・提言</b>	・深谷の子「6つの誓い」は、具体的で分かりやすく、家庭も一緒にやるもので、効果の期待できる素晴らしい取組である。今後も充実を図ってほしい。 ・感謝の心を育てていくために、渋沢栄一翁が大切にされた忠恕の心を受け継ぐ教育を進めてほしい。							

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	深谷の子「6つの誓い」の活用	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】学校・家庭・地域が一体となり、第2、第3の渋沢栄一翁を育てる基盤づくりを力強く推進するために、栄一翁の心を受け継ぐ深谷の子「6つの誓い」の取組を行う。		
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深谷市内各幼稚園、小・中学校、市役所、公民館、総合支所にチラシ及びポスターを配布した。</li> <li>・深谷市内各幼稚園、小・中学校の全園児・児童・生徒にチラシを配布し、各家庭に知らせた。</li> <li>・8月5日深谷市教育委員会開催の深谷市誕生10周年記念事業において、市内各小・中学校の取組を紹介した。</li> <li>・深谷市教育委員会のホームページに掲載し、各校の「6つの誓い」についての取組を紹介するとともに、各園、小中学校のホームページでも随時取組を紹介した。</li> <li>・市内の各種団体(子どもサポート市民会議、自治会連合会支会長会議等)の集会でチラシを配布し取組を紹介した。</li> <li>・手紙でつむぐ「ありがとう」の思いの内容例の中に、「6つの誓い」の取組を通した「ありがとう」の思いを入れ、募集した。</li> <li>・市内全自治会に回覧し、「6つの誓い」の内容を市民に知らせ、深谷市及び学校の道德教育に関する市民の関心を高めた。</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	チラシの配布	100% (39/39)	市内各幼稚園、小・中学校の全園児、児童、生徒に配布した。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	市内各小中学校での実践を、深谷市教育委員会や各校のホームページで紹介するなど、各学校の取組を支援することができた。各種団体の集会時に、チラシを配布するなど、市民へも知らせた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	「まごころ先生」派遣事業	<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】深谷市の特色を生かして、豊かな心を育むために、地域人材を活用したまごころ先生(市民との協働)の派遣を推進する。		
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋沢記念館解説員をはじめ、花卉店経営者や助産師、元教育長や校長をまごころ先生として派遣し、深谷市の地域の特色を生かした道德教育の推進と道德の時間の充実が図られた。</li> <li>・「渋沢栄一こころざし読本」の積極的な活用を図れた。</li> <li>・深谷市内の全小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。(小学校26回、中学校20回)</li> <li>・深谷市道德教育研修会を7月31日に実施し、「まごころ先生」の効果的な活用を図った事例を示した。(小学校21名、中学校10名参加)</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	「まごころ先生」活用率	小学校100% 中学校100%	すべての学校に派遣できた。
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、全小・中学校へ「まごころ先生」を派遣することで、「渋沢栄一こころざし読本」の活用もより積極的になり、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	まごころ訪問の実施		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】児童が育てた花と手紙を高齢者に贈る活動を通して、児童のまごころと思いやりを育てる。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を大切にする思いやりの心を育み、地域の絆を深めるために、市の65歳以上のひとり暮らしの高齢者世帯に花と手紙を届けられた。</li> <li>・全小学校19校で実施できた。(合計1,826世帯)</li> </ul> <b>【実施内容】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が、市教育委員会から配布された花の苗を鉢に植え替え、一定期間育て、一人暮らしの高齢者に向けた手紙を書く。</li> <li>・児童が、各地区で行われる民生委員・児童委員の定例会に出向き、民生委員・児童委員に花と手紙を渡す。</li> <li>・民生委員・児童委員が、一人暮らしの高齢者のお宅への訪問時に、児童から預かった花と手紙を届ける。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	「まごころ訪問」活用率	小学校100%	市内全小学校でまごころ訪問を実施した。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	平成25年度から、市内全小学校でまごころ訪問を実施している。子どもたちが育てた花と手紙を高齢者に贈る活動を通して、児童のまごころと思いやりを育てることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	子ども読書活動の推進		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】「深谷市子ども読書活動推進計画」のもと、学校図書館の充実を図り、児童生徒が読書活動に親しめるようにする。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小・中学校へ図書館補助員を配置した。</li> <li>・学校図書館補助員研修会では、図書館補助員の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を図った。また、中学校区毎の意見交換を2回実施し、小中の連携が図れた。(第1回平成27年10月23日。第2回平成28年3月25日。)</li> <li>・児童生徒への朝読書の実施や読書月間・旬間・週間の設定、学年ごとに年間目標冊数の設定等の読書活動の充実等を図った。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	市臨時職員(図書館補助員)の配置	100% (29校/29校)	市内全小・中学校に配置した。	
	一人当たりの年間図書貸出し数 小学校	46.2冊	前年度より微減	
一人当たりの年間図書貸出し数 中学校	6.1冊	前年度より増		
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	学校図書館補助員研修会では、図書館補助員の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を行うことができた。また、そのことにより、一人当たりの貸出し数は、小学校はほぼ同数値で、中学校では前年度より増えたため、「現状維持」とした。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				





<b>施策名</b>		いじめ・不登校の防止				<b>点検評価表 作成課</b>		学校教育課	
<b>施策の方向性</b>		○いじめ防止のため、児童生徒の人権感覚を育成するとともに、学校や家庭でのいじめの早期発見・早期対応に向けた取組を行います。また、教育相談活動を推進します。 ○不登校を未然に防止し、早期に対応するため、教育相談活動などを推進します。 ○中学校における不登校や、高校における中途退学を防ぐために、学校間の連携を深め、キャリア教育の充実に努めます。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○いじめ対策の推進 ○教育相談活動の推進 ○不登校対策の推進 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲)							
<b>指標名</b>		不登校児童生徒の割合							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	不登校(病気や経済的理由などを除く年間30日以上 の欠席)児童生徒の100人当 たりの割合	深谷市	2.4%	2.1%	1.6%	1.24%	1.25%		
		埼玉県	2.4%	2.4%	2.4%	2.0%	2.06%		
		現状値 (平成23年度)	中学生2.4% (深谷市)			➔	目標値 (平成29年度)	中学生2.2% (深谷市)	
<b>平成27年度 重点施策</b>		○いじめ防止基本方針に基づく関係会議の充実 ○教育相談員配置の充実 ○総合的な不登校対策の推進							
<b>平成27年度 実績</b>		○いじめ対策の推進 ・深谷市いじめ問題対策連絡協議会と深谷市いじめ問題専門委員会を開催した。 ・全中学校へ学校総合支援員を配置し、小学校3校、中学校9校へスクールライフサポーターを配置した。 ・いじめ状況等の調査の実施と見届け(全小・中学校、毎月)を行った。 ○教育相談活動の推進 ・「深谷イーネット」専門相談ダイヤルを開設した。 ○不登校対策の推進 ・「不登校対策小中連携シート」と「アセス(学校適応感尺度)」を活用し、学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感を測り、いじめ・不登校の未然防止につなげた。 ・「小1プロブレム」対応のための学校アシスタントティーチャー(全小学校)と小1問題対応非常勤講師(小学校7校)の配置をした。 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲) ・「中1ギャップ」対応のための小学校教科支援エキスパート(全小学校)と小学校理科支援員(全小学校)の配置をした。							
<b>総合評価</b>		<b>S</b>		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる    A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない        C: まったく進んでいない					
<b>課題</b>		いじめ認知件数、不登校児童生徒数ともに、減少傾向にあるが、きめ細かな支援を継続して行わなければ、簡単に増加してしまう可能性があるため、今後も学校、家庭、地域社会、関係機関等が連携して、取り組んでいく必要がある。							
<b>評価コメント</b>		・いじめ対策については、深谷市いじめ問題対策連絡協議会や深谷市いじめ問題専門委員会を開催するなど、多くの取組を行った。 ・不登校対策については、不登校児童生徒の割合が昨年度とほぼ同じであった。県の数値と比較するとだいぶ低いことから、総合評価は「S」とする。							
<b>意見・提言</b>		・成果指標である不登校児童生徒の割合は、非常に低く抑えられており、様々な取組を丁寧に行った成果だと言える。 ・いじめは、早期発見が非常に重要なので、調査等の取組の一層の充実を期待したい。 ・家庭環境が原因で不登校になる場合があるので、児童生徒だけでなく家庭の状況の把握にも努めてほしい。							

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	いじめ防止基本方針に基づく関係会議の充実		<b>担当課</b>	学校教育課								
<b>概要</b>	いじめ防止対策推進法第14条に基づき、いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携を図り、いじめを未然に防止し、早期発見、迅速に対応するための方策を協議する。											
<b>平成27年度の実績</b>	○平成27年度開催日程 【6月2日】第1回いじめ問題対策連絡協議会(深谷市教育庁舎)を行った。 【11月4日】第2回いじめ問題対策連絡協議会(深谷市教育庁舎)を行った。											
	○平成27年度深谷市内のいじめ認知件数は、小学校19件、中学校29件、計48件であったが、すべての事案について解消されており、解消率は100%であった。											
	○市内全ての小・中学校において、学校いじめ防止基本方針を策定し、学校いじめ防止等対策委員会を実施した。また、各学校でアンケート調査を行うことにより、いじめを未然に防止し、早期に発見することができた。											
	○深谷市では、ネットトラブルやネットいじめ等を防ぐため、子どもたちが中心となり、学校、家庭、地域が一体となって、インターネット使用のルール「安心ふっかネット」を提言した。											
<b>担当課評価</b>	○平成27年度は、市内すべての小中学校の代表が集まり、臨時児童生徒協議会を開催し、インターネット使用のルールである「安心ふっかネットを守るためにできること」について協議し、「4つの勇気」(使わない勇気・かけない勇気・受けない勇気・ことわる勇気)と小・中学校連携の取組を提言した。											
	○深谷市PTA連合会から、保護者の啓発のため「家庭の安心ふっかネット」が提言された。											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いじめ解消率</td> <td>100%</td> <td>小・中学校のきめ細やかな対応により、認知された全てのいじめを解消することができた。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				指標名	実績値	指標別コメント	いじめ解消率	100%	小・中学校のきめ細やかな対応により、認知された全てのいじめを解消することができた。		
指標名	実績値	指標別コメント										
いじめ解消率	100%	小・中学校のきめ細やかな対応により、認知された全てのいじめを解消することができた。										
	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>										
	1	深谷市いじめ問題対策連絡協議会により、学校と関係機関が連携していじめ問題に対応できた。「安心ふっかネット」を守るための取組を提言するなど、大きな成果をあげている。今後も、いじめ撲滅を目指し、未然防止、早期発見、早期対応に取り組んでいく。										

評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)

<b>重点施策名</b>	教育相談員配置の充実		<b>担当課</b>	学校教育課								
<b>概要</b>	全中学校に学校相談員を配置し、いじめ・不登校等の未然防止に向けた支援の充実を目指す。											
<b>平成27年度の実績</b>	・学校相談員を市内10校の中学校に配置し、教育研究所や中学校区の小学校と連携を図り、不登校や不適応を未然に防ぐ教育相談活動を行うことができた。											
	・教育研究所が主催し、学校相談員に対し3回の研修会を実施して、資質の向上に努めている。											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校相談員による教育相談件数</td> <td>4,204件</td> <td>利用者のいない日は開設しないため、昨年と比較すると件数は少なかった。</td> </tr> <tr> <td>中学校不登校生徒数の割合</td> <td>1.25%</td> <td>昨年度と比較すると同水準だったが、県平均より下回っている。</td> </tr> </tbody> </table>				指標名	実績値	指標別コメント	学校相談員による教育相談件数	4,204件	利用者のいない日は開設しないため、昨年と比較すると件数は少なかった。	中学校不登校生徒数の割合	1.25%
指標名	実績値	指標別コメント										
学校相談員による教育相談件数	4,204件	利用者のいない日は開設しないため、昨年と比較すると件数は少なかった。										
中学校不登校生徒数の割合	1.25%	昨年度と比較すると同水準だったが、県平均より下回っている。										
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>										
	1	学校相談員による教育相談件数が平成26年度6,404件に比べ、減少しているが、不登校生徒数の割合が平成26年度1.2%に比べ1.25%とほぼ同数なので、同様の効果が見られた。また、資質の向上を図るために、教育研究所にて、平成27年度も3回の研修会を実施した。										

評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)

重点施策名

総合的な不登校対策の推進

担当課

学校教育課

概要

小中一貫教育を推進するとともに、学校総合支援員、教科支援エキスパート、アシスタントティーチャーなどを配置し、不登校の未然防止、早期対応を図る。

平成27年度  
の実績

【学校総合支援員】  
・市内全中学校10校に配置し、不登校などに係る家庭訪問や学校運営上の様々な問題に対応した。

【スクールライフサポーター】  
・小・中学校11校に配置し、不登校など児童生徒の個々に応じた学校生活全般に関する支援を行った。

【小学校教科支援エキスパート】  
・市内全小学校19校に配置し、専門的な指導を充実させるとともに、小中のなめらかな接続に対応し、中1ギャップを軽減した。

【アシスタントティーチャー】  
・市内全小学校19校に配置し、教科における少人数指導や低学年(1・2年生)の生活指導の支援を行い、個に応じた指導や基礎学力の定着、学習習慣の育成を図った。

【不登校対策小中連携シート】  
・小学校における児童の出席状況等を中学校が適切に把握するための不登校の未然防止シートを活用し、不登校の未然防止を図った。

【アセス(学校適応感尺度)】  
・学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感を測るためのソフトであるアセスを、年2回程度全小・中学校で実施し、不登校の未然防止を図った。

【適応指導教室】  
・不登校などの理由により、在籍する学校を長期間にわたり欠席している児童生徒に対して、基礎学力を補充し、社会性を身につけさせ、登校しようとする意欲を喚起した。平成27年度は、16人が通級し、部分復帰も含め14名が学校復帰した。

【教育相談員】  
・不登校等の児童生徒に係る心の問題を解消するため、市内全中学校に配置した。相談室は、不登校傾向の児童生徒の居場所になることもあり、保護者の相談窓口としても機能した。

【スクールカウンセラー】  
・不登校等の児童生徒が抱える問題の解決や軽減のために、心の専門家として教職員へのコンサルテーションや児童生徒、保護者へのカウンセリング等の活動を行った。

【スクールソーシャルワーカー】  
・教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識や技術を用いて、不登校など児童生徒が置かれた様々な環境への働きかけや、関係機関等とのネットワークを活用し、問題を抱える児童生徒に支援を行った。

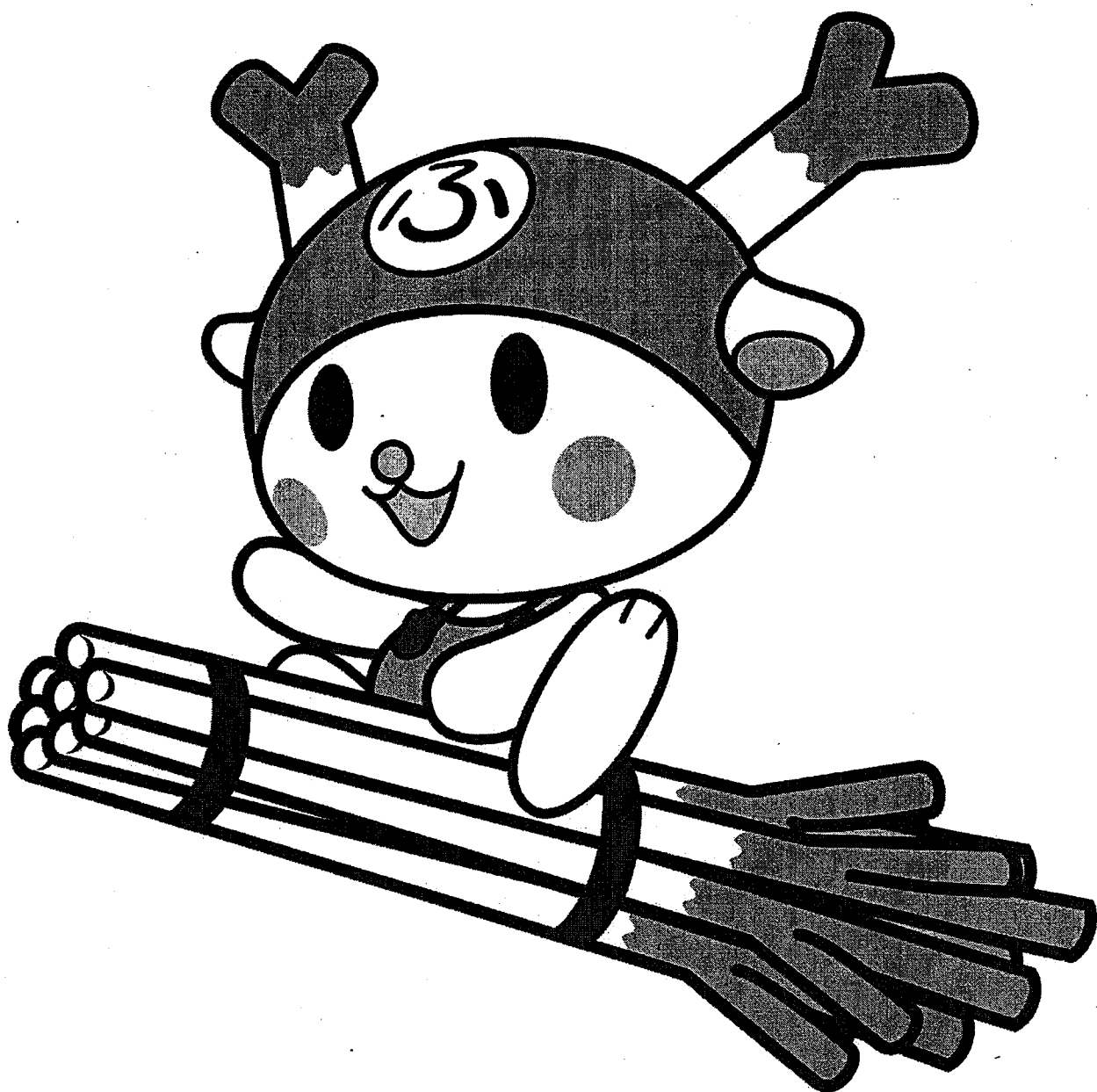
指標名	実績値	指標別コメント
不登校児童生徒数	53人	不登校児童生徒数は、一昨年度69人、昨年度53人と確実に減少傾向にある。総合的な不登校対策の成果と言える。
小学校不登校児童の割合	0.03%	平成27年度の不登校児童の割合は、昨年とほぼ同じである。
中学校不登校生徒の割合	1.25%	平成27年度の不登校生徒の割合は、昨年とほぼ同じである。

担当課  
評価

1

深谷市の総合的な不登校対策の取組により、不登校児童生徒数は7年連続で減少傾向にある。今後も、不登校ゼロを目指して、取り組んでいきたい。

評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)



<b>施策名</b>		生徒指導の充実		<b>点検評価表 作成課</b>		学校教育課		
<b>施策の方向性</b>		○生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進します。 ○関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行います。						
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○生徒指導体制の充実						
		○非行・問題行動の防止						
<b>指標名</b>		児童生徒の暴力行為の発生件数						
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内小・中学校における生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	30件	16件	19件	8件	7件		
		現状値 (平成23年度)		30件	→ 目標値 (平成29年度)		25件	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○生徒指導に係る学校訪問の充実 ○スクールライフサポーターの配置	
<b>平成27年度 実績</b>	<p>○生徒指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深谷市生徒指導推進協議会を年5回開催し、学校と警察との連携及び小学校と中学校の連携を図った。</li> <li>・生徒指導に係る学校訪問を実施し、校内生徒指導体制の充実に向けた指導・助言を行った。</li> <li>・ICT支援員が週1日、ネットパトロールを実施した。</li> <li>・県と連携し、「小1問題対応非常勤講師」を小学校7校に配置した。</li> </ul> <p>○非行・問題行動の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県警察に要請し、警察OBの方をスクールサポーター(非常勤・週2日・6時間)として市内中学校に配置し、問題行動の未然防止を図った。</li> <li>・スクールライフサポーター(SLS)を市内小・中学校11校に配置(配置要請)し、積極的な生徒指導や問題行動の未然防止を図った。</li> <li>・全ての小・中学校で非行防止教室を実施した。</li> </ul>	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	非行問題行動は減少傾向にあるが、個々に問題を抱えている児童生徒や家庭は多いので、特別支援教育の視点での対応と学校だけでなく関係諸機関との連携が一層必要である。	
<b>評価コメント</b>	・生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進し、関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行った結果、市内小・中学校における生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数が減少した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・成果指標である児童生徒の暴力行為の発生件数は、平成26年度8件、平成27年度7件と低く抑えられており、関係する各事業が非常に良い成果を挙げている。今後も継続して取り組んでほしい。 ・公園等のパトロールを強化してもらい、問題行動を未然に防ぐような取組を期待したい。
--------------	---

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	生徒指導に係る学校訪問の充実		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	いじめ・不登校問題をはじめ、児童生徒による非行・問題行動へ対応するため、「生徒指導に係る学校訪問」を実施し、市内全小・中学校における生徒指導の実態を把握し、課題解決に向けた協議等を通し、各学校における生徒指導のより一層の充実に支援しようとするものである。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度は、前期(6月から7月)に、小学校5校、中学校10校、計15校を訪問した。後期(10月から12月)は、小学校15校、中学校5校、計20校を訪問した。</li> <li>北部教育事務所指導主事や北部教育事務所いじめ・非行防止支援員等4名が生徒指導の現状や家庭・地域、関係諸機関との連携等について、各学校を訪問し、協議や授業参観等を行った。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	市内小・中学校における生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	7件	平成20年度には68件あった暴力行為(対教師暴力・生徒間暴力・対人暴力・器物破損)の総数が、年々減少している。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	深谷市内小・中学校における暴力行為の発生件数は、7年連続で減少している。非行問題行動も減少しており、生徒指導に係る学校訪問の成果が表れている。今後も引き続き実施し、生徒指導の充実に努めたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	スクールライフサポーターの配置		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】スクールライフサポーターの配置により、積極的な生徒指導を推進し、非行・問題行動の未然防止を図る。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スクールライフサポーターの配置</li> <li>・問題行動の発生を未然に防止し、生徒指導の充実に資するため、スクールライフサポーターを市内11の小・中学校に配置した。</li> <li>・配置については、上柴西、川本南、八基の小学校3校、幡羅、深谷、藤沢、南、上柴、岡部、川本、花園の中学校8校であった。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	スクールライフサポーターの配置校	11校	いじめや不登校など生徒指導上の課題に対応するため、スクールライフサポーターを小・中学校11校に配置し、問題行動の未然防止を図ることができた。	
不登校児童生徒数 市内小・中学校における生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	53名 7件	個に応じた指導支援を行ったことにより、非行問題が減少した。		
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	スクールライフサポーターを配置することにより、個に応じた指導支援を行うことができ、生徒は集中して授業に取り組むことができている。また、校内パトロールを実施することで、情報をキャッチして問題行動の未然防止を図ることができ、スクールライフサポーターの配置効果がでている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>施策名</b>		人権を尊重した教育の推進				<b>点検評価表作成課</b>		学校教育課		
<b>施策の方向性</b>		○人権教育を推進するための体制を充実するとともに、人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を改善します。 ○関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努めます。 ○男女共同参画の視点に立った教育を各学校の教育活動を通して推進します。								
<b>施策に関連する主な取組</b>		○人権教育推進体制の充実								
		○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善								
		○児童虐待防止教育の推進								
<b>成果指標</b>		<b>指標名</b>		人権感覚育成プログラムを実践した学級の割合						
		<b>指標の説明</b>		平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値
		市内の小中学校の全学級で、人権感覚育成プログラムを活用した授業実践を行った学級の割合	小学校	76%	85%	83%	89%	90%		
中学校	80%		86%	86%	87%	88%				
		現状値 (平成23年度)		小学校 76% 中学校 80%		➡		目標値 (平成29年度)		小学校 90% 中学校 90%

<b>平成27年度重点施策</b>	○情報モラル教育の推進(再掲) ○人権感覚育成プログラムの活用の推進 ○児童虐待防止教育の研修会の充実
-------------------	---

<b>平成27年度実績</b>	・人権教育推進体制の充実を図るために新転任人権教育研修会を年2回実施した。また、ブロック別人権教育研修会(市内10ブロック)と人権教育主任研修会を実施した。 ・人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善を行うため、深谷市新任・転入教職員研修やネットトラブルにおける情報モラルに係る指導、また、人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を実施した。 ・児童虐待防止教育の推進を図るため、児童虐待対応研修会や子どもの虐待防止講演会へ参加した。また、児童虐待防止に関する指導を実施した。
-----------------	--

<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	児童虐待防止教育の推進を図るため、県や市の関係部局とのより一層の連携を図る必要がある。
-----------	---

<b>評価コメント</b>	・人権意識の高揚を図る研修会等を計画的に実施することにより、教職員が自らの人権意識を見つめ直し、確かな人権感覚を身に付け、人権教育に関わる指導を行うことができた。今後も引き続き、研修会等を計画的、継続的に実施することで、教職員の資質向上を図る必要がある。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	--

<b>意見・提言</b>	・非行防止教室は保護者の協力ができないものであるが、保護者の参加人数は、前年度に比べて、大きく増加しており、素晴らしいことである。 ・ネットトラブルに陥らないように学校などで指導していく必要がある。 ・成果指標である人権感覚育成プログラムを実践した学級の割合は、平成27年度は微増だが、すべての学級で実践すべきものなので、100%の実践を期待したい。
--------------	---

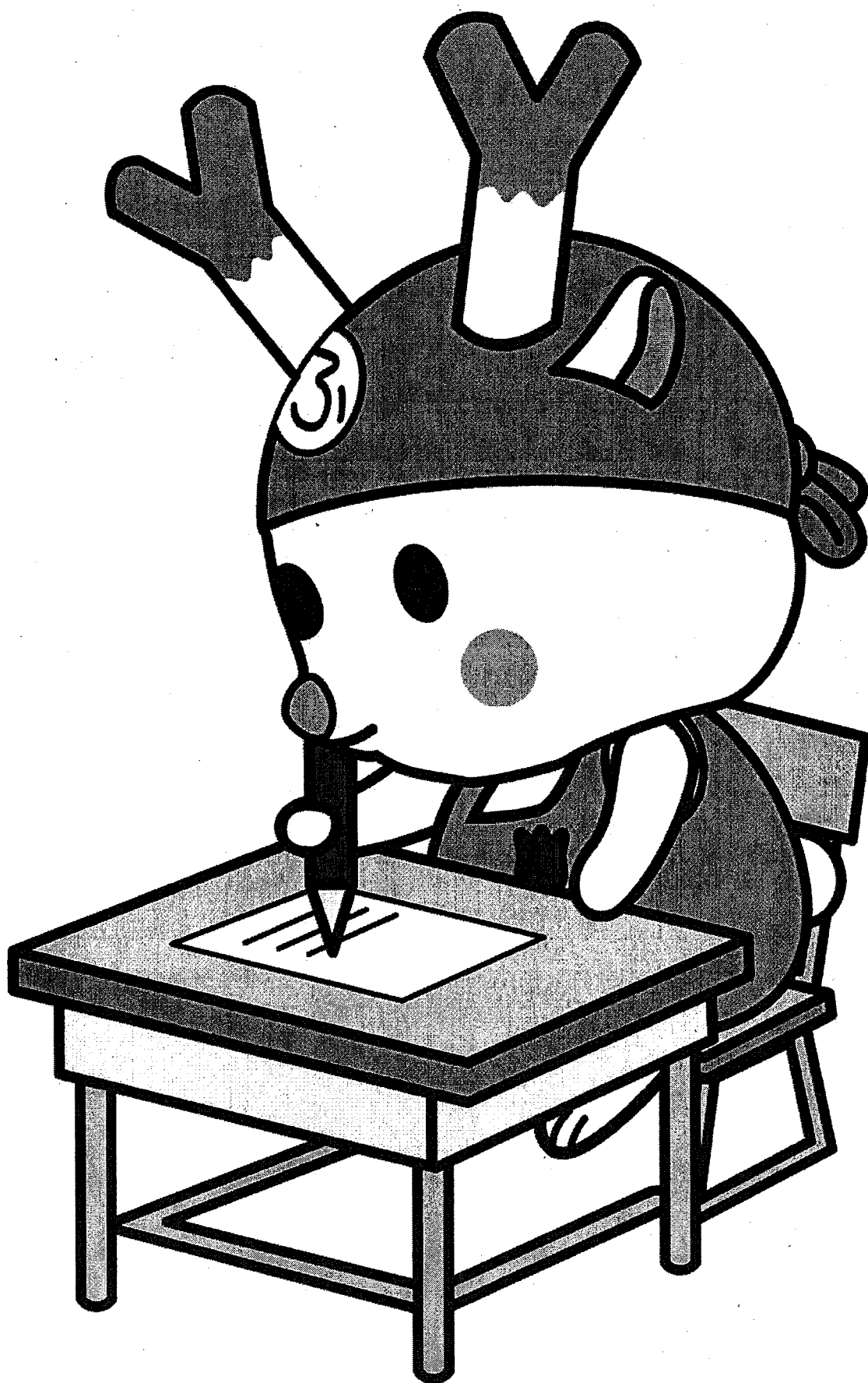


# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	情報モラル教育の推進(再掲)		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	児童生徒に情報モラルについての正しい判断力を身につけさせるための、情報モラル教育を充実する。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度新たに深谷市の教職員となった新任教員及び転入教職員等に「情報モラルについて」と題し、児童生徒が正しい判断力を身につけることができるよう人権教育研修を行った。</li> <li>・携帯電話の所持率やトラブルの増加傾向をうけて、全小・中学校の全児童生徒及び保護者を対象として、非行防止教室を実施し、ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導を行った。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	情報モラル教育の実施状況	100%	予定された教職員に対する研修及び児童生徒への指導を行うことができた。	
	非行防止教室保護者参加人数	2,193人	平成26年度は1,487人であったことから、毎年、継続的に保護者への啓発がなされているので、成果につながっている。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	教職員の研修、児童生徒への指導、保護者の啓発等、予定通り実施することができた。携帯電話の普及率やネットトラブルの現状から、今後も各事業を継続していくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	人権感覚育成プログラムの活用の推進		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	人権感覚育成プログラムを活用した授業を通して、児童生徒の人権感覚の育成を図る。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権感覚育成プログラムを活用した授業を、小学校19校、中学校10校で実施することができた。</li> <li>・人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を、小学校15校、中学校9校で実施することができた。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	人権感覚育成プログラムを活用した授業の実践	100% (29校/29校)	児童生徒に人権感覚育成プログラムを活用した授業を全校で実施することができた。	
	人権感覚育成プログラムを活用した校内研修の実施	82.8% (24校/29校)	教職員に人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を82%実施することができた。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	教職員を対象として人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を計画的に実施し、人権感覚の育成を図ることにより、児童生徒に人権感覚育成プログラムを活用した授業の充実を図っていくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	児童虐待防止教育の研修会の充実		担当課	学校教育課
概要	児童虐待防止研修会等を実施し、児童虐待に対する教職員の意識と指導力の向上を図る。			
平成27年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全小・中学校で児童虐待に対応する要保護児童対策地域協議会を設置した。</li> <li>・各校1名、児童虐待対応者担当者(児童虐待キーパーソン)を設置した。</li> <li>・児童虐待対応研修会への参加や児童虐待対応に関する職員研修を実施した。</li> <li>・県教育委員会作成の「児童虐待早期発見シート」を活用した。</li> <li>・児童虐待防止啓発視聴覚資料DVD「クリームパン」の視聴を行った。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	児童虐待対応研修会への参加状況	100% (29校/29校)	県・市が主催する児童虐待対応研修会へ参加し、児童虐待に対する教職員の意識を啓発することができた。	
	児童虐待対応に関する職員研修の実施状況	96.5% (28校/29校)	児童虐待対応に関する職員研修を各校で実施し、教職員の指導力の向上を図ることができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	児童虐待対応研修会への参加や職員研修の実施を予定どおり行い、児童虐待防止教育を推進することができた。今後も各事業を継続していくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				




<b>施策名</b>		健康の保持増進		<b>点検評価表 作成課</b>		学校教育課			
<b>施策の方向性</b>		○児童生徒の健やかな心と体の育成のため、学校・家庭・地域の医療機関等の関係機関が連携して、組織的に学校保健活動を推進します。 ○朝食の欠食を解消することを重点に、学校・家庭・地域が連携して食育を推進します。 ○性に関する指導、薬物乱用防止教育などの現代的な課題に対応する教育を推進します。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○学校保健の充実							
		○食育の推進							
		○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進							
<b>指標名</b>		毎日朝食を食べる児童生徒の割合							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内全児童生徒を対象とする「体力等に関する調査」から、「朝食を毎日必ず食べる」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生	94.0%	94.6%	95.6%	98.2%	97.1%		
		中学校2年生	89.0%	89.6%	91.8%	94.4%	93.2%		
		<b>現状値</b> (平成23年度)	小学校5年生 94% 中学校2年生 89%		<b>➡</b>	<b>目標値</b> (平成29年度)	小学校5年生 97% 中学校2年生 92%		
<b>平成27年度 重点施策</b>		○食育の推進と朝食欠食の解消 ○安心安全な学校給食の提供							
<b>平成27年度 実績</b>		○学校保健の充実 ・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を作成した。 ・保護者参加の学校保健委員会を実施した。 ○食育の推進 ・朝食のとり方を紹介した「こころざし」を配布した。 ・地場産物を活用した献立を作成した。 ○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)の作成及び性に関する授業を実施した。 ・非行防止指導班「あおぞら」や熊谷保健所等外部指導者を活用しての薬物乱用防止教室を実施した。							
<b>総合評価</b>		<b>A</b>		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない					
<b>課題</b>		朝食欠食率を減らす取組をより充実させ、家庭に協力してもらうための方策を考える必要がある。							
<b>評価コメント</b>		・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を全小・中学校で作成するとともに、学校保健委員会を全小・中学校で年1回以上実施することができた。 ・体力向上推進委員会で、朝食や睡眠などの生活習慣調査を実施し、児童生徒の生活習慣の現状等を把握することができた。 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)を作成し、性に関する授業を計画的に実施することができた。 ・全小・中学校で薬物乱用防止教室を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
<b>意見・提言</b>		・成果指標である毎日朝食を食べる児童生徒の割合は、高い数値ではあるが前年度に比べると平成27年度は下がっている。引き続き朝食欠食の解消に取り組んでほしい。 ・児童生徒が間違った情報に基づいて行動することがないように、各学校で性に関する教育、薬物乱用防止教育を推進することが必要である。							

## 重点施策評価表

重点施策名	食育の推進と朝食欠食の解消		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 ・家庭と連携して朝食欠食の解消に取り組み、子どもたちに望ましい食習慣を身に付けさせる。 ・栄養教諭等を中心に学校における食育を推進する。			
平成27年度 の実績	・体力向上推進委員会に栄養教諭(2名)も委員として参加し、朝食摂取率の向上を目標に取り組んだ。 ・教育委員会だより「こころざし」で、朝食のとり方について紹介した。 ・各小・中学校において、積極的に地場産物の購入に努め、地場産物を活用した献立を作成した。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校は97.1% 中学校は93.2%	朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小学校は1.1ポイント、中学校は1.2ポイント低下した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	朝食欠食の解消に向けた取組については、「こころざし」を各家庭に配布し、家庭に協力を求めることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	安心安全な学校給食の提供		担当課	教育総務課
概要	・地場産物の活用を推進し、地域の特色を生かした給食の充実を図る。 ・郷土料理を献立に取り入れ、子どもたちに郷土料理についての理解を深める。			
平成27年度 の実績	・各小・中学校において、積極的に地場産物の購入に努め、地場産物を活用した献立を作成した。 ・学校給食月間等に郷土料理を提供し、給食だよりや校内放送等で啓発することにより理解を深めた。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	地場産物を活用した献立の作成状況	100% (29校/29校)	全小・中学校で地場産物を活用した献立を作成することができた。	
	学校給食における地場産物の使用割合	30.6%	県の「食育推進基本計画」で定められた目標30%を達成した。	
	郷土料理を取り入れた献立の作成状況	100% (29校/29校)	全小・中学校で郷土料理を取り入れた献立を作成することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	学校に地場産物を積極的に活用するように呼びかけた結果、地場産物を使用した割合は30.6%となった。また、郷土料理も献立に取り入れ、啓発したことにより児童生徒への理解を深めることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>施策名</b>		体力の向上と学校体育活動の推進				<b>点検評価表 作成課</b>		学校教育課	
<b>施策の方向性</b>		○「教育に関する3つの達成目標」(体力)を推進します。 ○体力向上推進委員会を中心に、家庭や地域社会と連携しながら体力向上推進事業に取り組みます。 ○専門的な指導力を有する地域の外部人材を積極的に活用するなど運動部活動の充実に取り組みます。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○学校体育の充実							
		○「教育に関する3つの達成目標」の推進							
		○運動部活動の充実							
<b>指標名</b>		新体カテストの結果							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	<b>平成23年度 実績値</b>	<b>平成24年度 実績値</b>	<b>平成25年度 実績値</b>	<b>平成26年度 実績値</b>	<b>平成27年度 実績値</b>	<b>平成28年度 実績値</b>	<b>平成29年度 実績値</b>	
	新体カテスト結果の5 段階絶対評価で上位2 ランク(A, B)の児童生 徒の割合	小学校	52.4%	51.8%	53.6%	56.7%	54.1%		
		中学校	47.1%	57.8%	56.0%	57.0%	56.7%		
		<b>現状値 (平成23年度)</b>	小学校 52.4% 中学校 47.1%				<b>目標値 (平成29年度)</b>	小学校 57% 中学校 52%	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○武道指導の充実 ○体力向上の取組の推進 ○外部指導者の活用
------------------------	--------------------------------------

<b>平成27年度 実績</b>	○学校体育の充実について ・体力向上推進委員会を年2回実施した。 ・小学校水泳実技指導者講習会と小学校体育実技指導者講習会を実施した。 ・外部指導者を活用する柔道授業を6中学校で実施した。  ○教育に関する3つの達成目標 ・新体カテストを実施した。 ・走力向上「50m走にチャレンジ」を実施した。  ○運動部活動の充実 ・外部指導者を活用し、全10中学校に40名派遣した。
----------------------	--

<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	柔道授業の外部指導者の確保と走力を向上させるためのプログラムの作成・活用が課題である。
-----------	---

<b>評価コメント</b>	・新体カテストの結果における上位2ランクの児童生徒の割合は、前年度と比較すると、小学校では2.6ポイント、中学校では0.3ポイント低下したが、60%以上の項目で県平均値を上回ることができた。(64.6%) ・全中学校で外部指導者を活用した部活動を実施した。外部指導者を活用することにより、安全かつ専門的な指導及び個に応じたきめ細かな指導を実施することができた。その結果、大きな怪我をした生徒は1人もいなかった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	---

<b>意見・提言</b>	・柔道など激しいスポーツで怪我が無かったのは、安全に留意した結果であり、評価できる。 ・今は、家や学校などで走り回って遊ぶ子が少ない。体力向上のためには、グラウンドを駆け回って遊ぶということが大事である。
--------------	---

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	武道指導の充実		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】教員の研修を充実し、安全な武道の学習を推進する。			
<b>平成27年度 の実績</b>	○柔道の授業がある市内6中学校に外部指導者を配置できた。(明戸中、幡羅中、深谷中、南中、岡部中、川本中)			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	柔道の授業がある学校への外部指導者の配置状況	100% (6校/6校)	柔道の授業がある6校全てに外部指導者を配置することができ、安全かつ効果的な授業が展開できた。	
	柔道の授業における大きなけがをした生徒の数	0人	柔道の授業において、大きなけがをした生徒は1人もいなかった。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	柔道支援では、外部指導者が保健体育科の教員の補助に入ることで、安全かつ充実した授業展開を図ることができた。また、教職員の指導力を向上させるとともに、けが人を1人もだすことなく、個に応じた効果的な指導が実施できた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	体力向上の取組の推進		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	「50m走にチャレンジ」を推進するとともに、体育授業を充実し、児童生徒の体力向上を図る。			
<b>平成27年度 の実績</b>	○体力向上に係る重点種目である50m走において、自己の記録を高めることを目標に、全小・中学校で「50m走にチャレンジ」を実施した。 ○小学校で市教育委員会主催の「体育実技指導者講習会」を3回開催した。			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	新体カテストにおける50m走の記録が県平均を上回った割合	16.6%	県平均値を上回った学年の割合が、昨年度と比較すると22.2ポイント低下した。	
	実技指導者講習会の実施回数	3回	小学校は体育実技指導者講習会を開催し、教職員の指導力を向上させることができた。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	小学校は、実技指導者講習会を開催し、教職員の指導力を向上させるとともに、体育の授業を充実させることができた。新体カテストにおいては、「50m走」に課題はあるが、中学校における上位2ランクの生徒の割合は56.7%となり、目標値52%を上回ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	外部指導者の活用		担当課	学校教育課
概要	地域で専門的スキルを有する人材を外部指導者として派遣し、運動部活動における技術的な指導の充実を図る。			
平成27年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての中学校で外部指導者を40人配置できた。</li> <li>配置内訳は、剣道部7人、サッカー部6人、柔道部4人、ソフトテニス部5人、ソフトボール部4人、卓球部3人、バスケットボール部3人、陸上1人、バドミントン部2人、バレーボール部1人、野球部2人、ラグビー部2人であった。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	外部指導者の配置	100% (10校/10校)	外部指導者を市内全中学校に配置できた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	全ての中学校に外部指導者を配置することができた。また、外部指導者を活用することで、指導者の資質の向上を図るとともに、地域の指導者を活用することで、運動部活動と地域社会との連携を促進することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				





<b>施策名</b>	信頼される教職員の育成		<b>点検評価表 作成課</b>	学校教育課			
<b>施策の方向性</b>	○教職員の経験年数や専門性に応じた適切な研修を充実します。 ○人事評価制度を充実し、教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組みます。 ○教員が子どもと向き合う環境づくりのための取組を推進します。 ○教職員の健康管理に配慮し、悩みを抱える教職員に対する取組を推進します。						
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○教育研究所の機能の充実			○指導力が不足している教員への対応			
	○経験豊かな人材の活用			○子どもと向き合う環境づくりの推進			
	○教職員研修の充実			○悩みを抱える教職員に対する取組の推進			
	○人事評価制度の充実						
<b>指標名</b>	教職の経験年数に応じた研修の実施状況						
<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
<b>成果指標</b> 若手や中堅・ベテランの教職員、管理職等の経験年数に応じて必要とされる資質・能力を高める研修をそれぞれ年2回実施する	若手教職員研修の回数	0	0	2	2	2	
	中堅教職員研修の回数	0	0	0	2	2	
	管理職研修の回数	2	2	3	3	2	
<b>現状値 (平成23年度)</b>	管理職対象の研修会2回の実施		<b>→</b>		<b>目標値 (平成29年度)</b>	①若手教職員対象の研修を実施(2回) ②中堅・ベテラン教職員対象の研修を実施(2回) ③管理職対象の研修を実施(2回)	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○教職員の指導力の向上 ○経験年数に応じた教員研修 ○評価者研修会の充実 ○ICT活用による校務支援	
<b>平成27年度 実績</b>	○教育研究所の機能の充実 ・教育研究所の機能の充実を図るため、研修の開催、学校・児童生徒・保護者及び地域の支援を行った。 ○経験豊かな人材の活用 ・経験豊かな人材を活用し、児童生徒の問題行動や保護者・地域との対応等、学校が抱える様々な課題の解決に向けた支援体制として、学校総合支援員15名を配置した。 ○教職員研修の充実 ・職員研修の充実を図るため、研究所協力員研修会、各教科等担当指導主事による研修会等を実施した。また、若手教職員対象の研修会を2回、中堅・ベテランの教職員対象の学校運営研修会を2回、市内園長・校長会議において、管理職対象の研修会を2回実施した。 ○人事評価制度の充実 ・人事評価制度の充実を図るため、評価者研修会を実施した。 ○指導力が不足している教員への対応 ・指導力が不足している教員への対応として、各指導主事が学校を訪問し繰り返し指導を実施した。 ○子どもと向き合う環境づくりの推進 ・子どもと向き合う環境づくりを推進するため、校務支援システムの更新に合わせ、指導要録の電子化を実施した。 ○悩みを抱える教職員に対する取組 ・悩みを抱える教職員に対する取組として、担当委嘱医による教職員メンタルヘルス相談を年12回実施した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	・若手、中堅・ベテラン教職員の経験年数に応じて必要とされる資質・能力を高める研修の内容の充実を図る。	
<b>評価コメント</b>	・管理職を対象とした研修会を年間2回実施するとともに、若手教職員研修を2回実施した。中堅教職員研修についても、平成27年度より2回実施した。 ・教職員の指導力の向上については、研究所協力員による、小中一貫教育の全体計画・指導計画を作成した。また各教科等の担当指導主事による研修会等を実施した。 ・子どもと向き合う環境づくりのために、ICT活用による校務支援システム更新に伴い指導要録の電子化を行った。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・教職員が多方面にわたる研修に参加しており、教職員の資質・能力の向上が読み取れる。 ・教科指導、生徒指導の研修会の充実を図ってほしい。
--------------	--

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	教職員の指導力の向上		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	小中一貫教育における教職員の交流を活性化するとともに、合同研修会などを実施し、授業改善を図る。			
<b>平成27年度の実績</b>	【深谷市立教育研究所を会場にした教員の研修会】 ・研究所協力員研修会 ・各教科等担当指導主事による研修会 ・小中一貫教育研修会 ・生徒指導 ・教育相談中級研修会 ・巡回相談研修会 ・特別支援教育担当者研修会 ・特別支援教育コーディネーター研修会 ・通級指導教室研修会 ・セルフサポート教室研修会 ・早期支援事業研修会 ・就学支援委員会 ・生徒指導研修会等			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	教育研究所における研修会参加人数	3,846人	昨年度は延べ5,780人が参加しており、延べ人数としては減少している。	
	研修会に参加した回数(1人あたり)	4.6回 (3,846回/836人)	参加人数は昨年とほぼ同数(昨年835人)で1人当たり6.9回の参加であったが今年では4.6回となっている。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	平成27年度に教育研究所で行われた教員研修会の参加人数は836人で昨年度とほぼ同数であったが、1人あたりの参加した回数が6.9回から4.6回に減少したため、延べ参加人数が減少した。引き続き、教員研修会を開催していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	経験年数に応じた教員研修		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	2年次教員研修会、中核教員研修会等の経験年数に応じた研修会の実施や自主的な研修会の支援を通じ、教職員の資質と力量の向上を図る。			
<b>平成27年度の実績</b>	○市教育委員会が主催し、実施した研修会 ・初任者研修として、初任者研修、施設研修を実施した。 ・2年次研修として、セカンドステップ研修を実施した。 ・中堅・ベテランの教職員を対象とした、学校運営研修会を実施した。 ・管理職を対象とした研修を実施した。 ・臨時教職員、非常勤講師等に関わる研修を実施した。 ・(アシスタントティーチャー、教科支援エキスパート、図書館補助員、スクールライフサポーター、学校相談員、学校総合支援員、理科支援員等) ・教科等指導法の研修を実施した。(算数・数学、理科、英語、体育、道徳) ・新任教職員及び転入教職員を対象とした人権教育にかかる研修を実施した。			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	若手教職員研修の回数	2回	セカンドステップ研修として2年次の教職員を対象とした研修を2回行った。	
	中堅教職員研修の回数	2回	学校運営研修会として、各学校より中堅・ベテランの教職員対象の研修会を2回実施した。	
	管理職研修の回数	2回	校長を対象とした研修会を2回実施した。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	たくさんの新任教職員が入ってくる中、指導力の向上とベテラン教職員の指導技術継承のため、若手教職員研修を実施することができた。市教育委員会の指導主事も指導者として参加しながら、各学校でも校内研修等で指導力向上のための研修を実施した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	評価者研修会の充実		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	人事評価結果が給与等へ反映されることを踏まえ、管理職が人材育成の視点に立ち評価が行えるよう、研修の充実を図る。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小中学校の校長及び教頭の評価者としての人事評価制度に対する知識と評価能力の向上を目指し、年間校長2回、教頭2回の研修を実施した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	管理職への研修会の回数	校長2回 教頭2回	人事評価制度の改正に伴い、講義形式と事例を取り上げての演習形式で、研修を実施。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	3	管理職である校長と教頭への評価者としての研修会を2回ずつ実施することができた。 平成28年度からは、評価結果が給与等へ反映されることから、改正点の理解と、評価者としての、評価能力の向上を目指した研修の回数を増やし、充実を図る。		
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）				

<b>重点施策名</b>	ICT活用による校務支援		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】各小・中学校の校務用コンピュータに校務支援システムを整備することにより、名簿や出欠席、成績などの一元化された情報を、通知表や指導要録、調査書などに反映し、活用できるようにし、教職員の事務的業務の負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保できるようにする。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムをはじめとするICT機器の活用により、校務の効率化やICTの指導への利用を進めていくことができた。（校務支援システムによって軽減された時間：65.4時間（H26年調査））</li> <li>・すべての小中学校において指導要録と出席簿の電子化を実施するとともに、抄本や調査書についても電子化し、教師が子どもと向き合う時間を確保した。</li> <li>・ICT機器を活用する能力については、平均92.6%の教員が活用することができる。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	92.6%	埼玉県の平均82.9を10%近く超える結果であった。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	平成26年度においてすべての整備を終え、システム導入前と比較して時間軽減や満足度を調査することができなくなった。そのため、校務におけるICT活用能力を指標とすることとした。この指標において、県の平均を10%近く超える結果となった。		
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）				



<b>施策名</b>	子どもたちの安心・安全の確保		<b>点検評価表 作成課</b>	学校教育課					
<b>施策の方向性</b>	○東日本大震災の教訓を踏まえ、子どもたちに危機管理能力の基礎を身に付けさせるため、学校における実践的な避難訓練などを計画的に実施します。 ○学校における危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上に努めます。 ○児童生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進します。 ○災害に強い情報基盤として、「緊急連絡サイト」を設置し、全ての小・中学校で活用していきます。								
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○安全教育の推進								
	○学校の危機管理体制の整備・充実								
	○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進								
<b>指標名</b>	緊急地震速報を活用した避難訓練の実施率								
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	緊急地震速報の音源を 活用した避難訓練を年 1回以上実施する	小学校	63.1%	100%	100%	100%	100%		
		中学校	80.0%	100%	100%	100%	100%		
		<b>現状値 (平成23年度)</b>	小学校 63.1% 中学校 80%		<b>➡</b>		<b>目標値 (平成29年度)</b>	小学校 100% 中学校 100%	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○避難訓練の実施 ○地震対応マニュアルの活用 ○緊急連絡サイトの活用促進	
<b>平成27年度 実績</b>	○安全教育の推進 ・市内全小・中学校で交通安全教室を実施した。  ○学校の危機管理体制の整備・充実 ・市内全小・中学校が緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を実施した。  ○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進 ・各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課からなる深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 ・災害に強い情報基盤として、「緊急連絡サイト」を全ての小・中学校に設置し、活用した。 ・学校が主体となって、保護者や地域の協力を得ながら、安全点検を実施した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	・緊急連絡サイトのアクセス日(毎月11日)におけるアクセス率を向上させることが課題である。 ・通学路安全点検の結果を受けて、危険箇所等に係る児童・生徒への指導と、地域や保護者への情報提供を適宜行っていく必要がある。	
<b>評価コメント</b>	・埼玉県教育委員会の方針でもある「緊急地震速報を活用した避難訓練」を全小・中学校で1回以上実施できた。 ・災害時に強い双方向の「緊急連絡サイト」を、全小・中学校でホームページ上に設置できた。 ・深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・成果指標である避難訓練では、保護者引き渡しなど、多方面にわたる危機対応の訓練を行っており、評価できる。今後も継続してほしい。 ・緊急連絡サイトは、テスト運用に参加した家庭も着実に増えており、非常に素晴らしい取組である。 ・地域と連携した防犯、交通安全等では、保護者から要請があれば、すぐに対処をしてもらいたい。
--------------	--

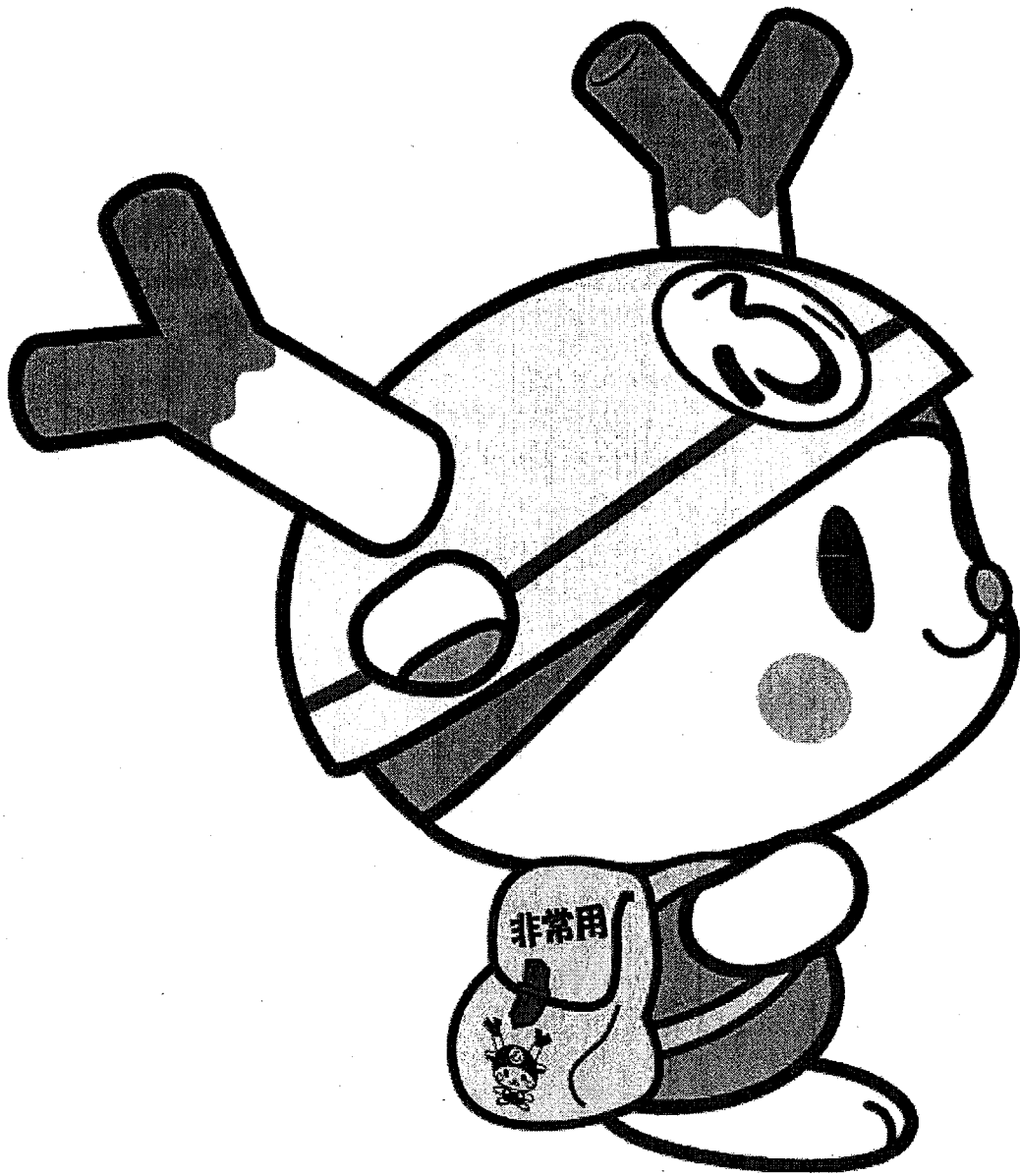
# 重点施策評価表


<b>重点施策名</b>	避難訓練の実施		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	緊急地震速報を活用した避難訓練を全ての小・中学校で実施し、緊急地震速報を聞いた時の避難の仕方を学び、迅速に避難できるようにする。			
<b>平成26年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急地震速報を活用した避難訓練は市内小学校19校、中学校10校すべての小・中学校が実施した。</li> <li>小学校においては、引き渡し訓練を含めた避難訓練を全小学校が実施した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	緊急地震速報の音源を活用した避難訓練の実施状況(各校年1回以上)	100%	全ての小・中学校において緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	緊急に地震が起きた場合に、児童生徒が安全かつ迅速に避難できるよう、全ての小・中学校において緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。また、教職員においても、地震が起きたときの役割や児童生徒の誘導について理解することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	地震対応マニュアルの活用		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」を活用した避難訓練及び保護者への緊急時における引き渡し訓練(小学校)を実施する。			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>震度を基準にした「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」の見直しをした。</li> <li>引き渡し実施基準を明確化し、地震対応マニュアルを各学校から保護者へ周知し徹底した。</li> <li>全小・中学校が地震対応マニュアルを活用した避難訓練を実施した。</li> <li>全小学校は、地震対応マニュアルを活用し、震度5弱以上の地震を想定した避難訓練後に保護者引き渡し訓練を実施した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	引き渡し方法や下校方法を含む震度等を基本とする地震対応マニュアルの保護者への周知	100%	全ての小・中学校が地震対応マニュアルを配付等して周知した。	
	地震対応マニュアルを活用した避難訓練を実施した小・中学校の割合	100%	全ての小・中学校において緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	全ての小・中学校において「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」を基にし、緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。東日本大震災の教訓を忘れないよう、今後も学校等の意見を受けて、「震度4以上の地震に対する学校初動対応マニュアル」の見直し・修正等を行っていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	緊急連絡サイトの活用促進		担当課	学校教育課
概要	学校ホームページに設置した「緊急連絡サイト」を定期的にテスト運用し、学校と保護者とが緊急時に連絡を取れる体制を整えるとともに、大雨や台風、地震などの災害発生時に実際に活用する。			
平成27年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急連絡サイトのテスト運用を年間3回実施した。</li> <li>・回答者数の市内平均は小学校で50.7%、中学校で45.1%であった。</li> <li>・平成27年度中に1度でもテスト運用に参加した家庭の割合は小学校で73.7%、中学校で55.4%であった。</li> <li>・平成27年度は大雨や降雪などにより、実際に緊急連絡サイトを3回活用した。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	一度でも緊急連絡サイトのテスト運用に参加した家庭の割合(小学校)	73.7%	昨年度は75.1%で、若干割合は下がった。	
	一度でも緊急連絡サイトのテスト運用に参加した家庭の割合(中学校)	55.4%	昨年度は52.3%で、若干割合は上がった。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	中学校でのテスト運用への参加率が低いものの増加傾向にある。小学校での参加率は高い水準を維持している。東日本大震災の教訓を忘れないよう、今後も毎月11日のアクセス日を定着させ、いざというときの備えとしたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				





<b>施策名</b>	学習環境の整備・充実		<b>点検評価表 作成課</b>	教育総務課					
<b>施策の方向性</b>	○計画的な施設整備により、安全で快適な学校環境づくりを進めます。 ○学校図書館の資料の充実や、学校の情報化を推進し、教材・備品の整備を推進します。								
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○学校施設の整備推進								
	○学校図書館の整備・充実								
	○ICT環境の整備								
	○学校教材・備品の計画的な整備								
<b>指標名</b>	学校図書館図書標準を達成した学校の割合								
<b>成果 指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	学校図書館に整備すべき蔵書を標準として、文部科学省が定める基準を達成した学校数の割合	小学校	94.7%	100%	100%	94.7%	100%		
		中学校	100%	100%	90%	100%	100%		
		<b>現状値 (平成22年度)</b>	小学校 89.5% 中学校 100%			<b>目標値 (平成29年度)</b>	小学校 100% 中学校 100%		

<b>平成27年度 重点施策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校・幼稚園施設大規模改修事業</li> <li>○幼稚園施設整備維持事業</li> <li>○幼稚園施設建設事業</li> <li>○理科及び算数・数学教育のための設備の整備</li> </ul>	
<b>平成27年度 実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校施設の整備推進                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・深谷小学校体育館の大規模改修工事(天井等落下防止対策工事を含む。)、幡羅小学校体育館の天井等落下防止対策工事、花園幼稚園遊戯室及び木造園舎の耐震補強工事を行った。</li> <li>・幡羅幼稚園及び明戸幼稚園の小学校舎内への移転に伴う移設改修工事を行った。</li> <li>・常盤幼稚園及び藤沢幼稚園の新園舎の建設工事を行った。</li> </ul> </li> <li>○学校図書館の整備・充実                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館の蔵書の充実を図るため、全小・中学校で図書の新規購入、更新を行った。</li> <li>・全小・中学校に市費の図書館補助員を配置した。</li> </ul> </li> <li>○ICT環境の整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校5校で、教室用プロジェクタの入替を行った。</li> <li>・小学校1校、中学校2校で、コンピュータ室の機器の入替を行い、タブレットPCとしても活用できるハイブリッド型PCを導入した。</li> <li>・小学校4校、中学校2校で、教師指導用タブレットの入替を行った。</li> </ul> </li> <li>○学校教材・備品の計画的な整備                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助金を活用して、理科、算数及び数学の設備を整備した。</li> <li>・全小・中学校で、破損した児童生徒用の机・椅子を更新した。</li> <li>・小学校2校、中学校3校で、故障した保健室・職員室のエアコンを更新した。</li> <li>・小学校4校、中学校1校で、老朽化した電話設備を更新した。</li> </ul> </li> </ul>	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設、設備、備品の老朽化への対応が求められている。</li> <li>・学校図書館の蔵書のうち時間の経過により資料価値が無くなるものについては、計画的に更新する必要がある。</li> <li>・学校備品の整備を着実に進めるために、毎年度、一定の予算の確保が必要になる。</li> </ul>	
<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり小学校・幼稚園の大規模改修及び耐震補強を進めることができた。</li> <li>・耐震性の確保されていない幼稚園の移設改修及び新園舎建設により、地震に対する安全性の確保が図れた。</li> <li>・計画的な図書の購入により、全小・中学校で学校図書館の標準図書冊数を上回ることができた。</li> <li>・授業でタブレットPCを活用できる環境の整備を進めることができた。</li> <li>・国庫補助金を活用したことにより、理科、算数及び数学の設備の整備を進めることができた。</li> <li>・老朽化した多くの学校備品を更新することができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>	

<b>意見・提言</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震化・老朽化への対策を着実に進め、安全な学校環境が整ってきており、評価できる。</li> <li>・家庭のほとんどが洋式トイレとなっているので、引き続き小・中学校のトイレの洋式化を進めてほしい。</li> </ul>
--------------	---

# 重点施策評価表

重点施策名	小学校・幼稚園施設大規模改修事業	担当課	教育施設課
概要	校舎や体育館を通常の学校施設として、また、災害時の避難場所として安全に使用するため、地震に対する安全性の確保及び老朽化や教育内容の変化に対応できるように、構造部材の耐震化及び施設の改修工事を実施する。		
平成27年度の実績	○大規模改修工事の実施 深谷小学校体育館の大規模改修工事(天井等落下防止対策工事含む。)を実施した。		
	○非構造部材の耐震化工事の実施 幡羅小学校体育館の天井等落下防止対策工事を実施した。		
	○耐震補強工事の実施 花園幼稚園遊戯室及び木造園舎の耐震補強工事を実施した。		
	指標名	実績値	指標別コメント
大規模改修工事が完成した学校数(年度計画1校)	1校	年度計画どおり深谷小学校体育館の大規模改修工事を完了した。	
非構造部材の耐震化工事が完成した学校数(年度計画1校)	1校	年度計画どおり幡羅小学校体育館の天井等落下防止対策工事を完了した。	
幼稚園の耐震補強工事が完成した園数(年度計画1園)	1園	年度計画どおり花園幼稚園の遊戯室と木造園舎について耐震補強工事を完了した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	平成27年度予定の大規模改修工事(1校)、幼稚園の耐震補強工事(1園)は、計画どおりに実施できた。併せて非構造部材の耐震化工事(1校)を実施することができた。 引き続き、設計業務が完了している川本中学校管理棟及び花園中学校武道場の大規模改修工事、小学校3校体育館及び中学校9校武道場の天井等落下防止対策工事に向けた事務手続を進めたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	幼稚園施設整備維持事業	担当課	教育施設課
概要	耐震対策として、耐震性の確保されていない幼稚園を小学校の校舎内へ移転するため、移設改修を行う。		
平成27年度の実績	○幼稚園移転に伴う改修工事の実施 幡羅幼稚園及び明戸幼稚園の移設改修工事を実施した。		
	【幡羅幼稚園】 幡羅幼稚園の保育室2部屋と職員室1部屋を、幡羅小学校東棟北校舎の1階に移転した。		
	【明戸幼稚園】 明戸幼稚園の保育室1部屋と職員室・倉庫1部屋を、明戸小学校西校舎(昭和校舎)の1階に移転した。		
	指標名	実績値	指標別コメント
幼稚園の移転に伴い改修工事が完成した園数(年度計画2園)	2園	年度計画どおり幡羅幼稚園と明戸幼稚園の移設改修工事を完了した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	4	年度計画どおり進めることができた。今後は、幼稚園施設の適正な維持管理に努めていく。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	幼稚園施設建設事業		<b>担当課</b>	教育施設課
<b>概要</b>	耐震性の不足及び老朽化に伴い、常盤、藤沢幼稚園の園舎を新築する。			
<b>平成27年度の実績</b>	○常盤幼稚園及び藤沢幼稚園・藤沢学童保育室の建設工事を実施した。			
	【常盤幼稚園】 常盤小学校敷地内に新築 鉄骨造平屋建て 床面積332㎡ 保育室2、遊戯室1、職員室1、教材室兼物置1、男子トイレ1、女子トイレ1、多機能トイレ1			
	【藤沢幼稚園】※藤沢学童保育室併設 幼稚園敷地内に新築 鉄骨造平屋建て 床面積445㎡(うち幼稚園分343㎡) 保育室2、遊戯室1、職員室・保健室1、教材室・物置1、男子トイレ1、女子トイレ1、多機能トイレ1			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
園舎を建設した園数 (年度計画2園)	2園	年度計画どおり常盤幼稚園と藤沢幼稚園の建設工事を完了した。		
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	2	稼働している園舎の耐震対策に伴う建設工事は完了したが、来年度は藤沢幼稚園の外構工事が予定されているため引き続き進めたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	理科及び算数・数学教育のための設備の整備		<b>担当課</b>	教育総務課
<b>概要</b>	理科、算数及び数学に関する教育を実施するための設備の整備を行う。なお、理科教育設備整備費等補助金交付要綱に基づく国庫補助金も活用する。			
<b>平成27年度の実績</b>	各学校への配当予算及び国庫補助金により、次のとおり理科、算数及び数学の設備を購入した。主な購入設備は、顕微鏡、電子てんびん、直流電流計、円の面積説明器、立体展開説明器。			
	【小学校】 理科設備： 整備額 2,107,505円(内補助額930,791円) 購入数 111個(内補助対象99個) 算数設備： 整備額 355,373円(内補助額148,022円) 購入数 22個(内補助対象3個)			
	【中学校】 理科設備： 整備額 914,360円(内補助額374,209円) 購入数 33個(内補助対象27個) 数学設備： 整備額 99,288円(内補助額 14,978円) 購入数 5個(内補助対象1個)			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
【小学校】 国が定める1校当たりの設備の基準金額に対する現有額(全校平均)の割合	理科 49.8% 算数 41.8%	前年度と比較して、理科は0.9ポイント、算数は0.8ポイント向上した。 (1校当たりの基準金額：理科10,341,000円、算数2,124,000円)		
【中学校】 国が定める1校当たりの設備の基準金額に対する現有額(全校平均)の割合	理科 30.9% 数学 20.4%	前年度と比較して、理科は0.4ポイント、数学は0.4ポイント向上した。 (1校当たりの基準金額：理科22,344,000円、数学2,364,000円)		
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	国庫補助金(計1,468,000円)も活用し、理科、算数及び数学の設備の整備を進めることができた。今後も、新たな設備の購入及び老朽化した設備の入替を進めていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



基本目標Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

Ⅳ-1

<b>施策名</b>		家庭の教育力の向上		<b>点検評価表 作成課</b>		生涯学習スポーツ振興課		
<b>施策の方向性</b>		○家庭教育の大切さや子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けるための啓発活動を推進します。 ○親として育ち、家庭での教育力を付けるための学習を推進します。						
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○家庭教育学級の充実						
		○「親の学習」講座の推進						
		○家庭教育だより「まごころ」の発行						
<b>指標名</b>		新中学1年生の保護者に対する「親の学習」講座実施件数						
<b>成果 指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	中学生になる小学6年生の保護者に向けて、「親の学習」講座を実施した件数(小学校の就学時健診において、新小学1年生の保護者に対しては既に実施済)	0回 (0校)	2回 (2校)	3回 (3校)	4回 (4校)	9回 (9校)		
		現状値 (平成23年度)		未実施		→		目標値 (平成29年度)

<b>平成27年度 重点施策</b>	○家庭教育学級事業 ○家庭教育事業	
<b>平成27年度 実績</b>	○家庭教育学級の充実 ・全12公民館において、家庭教育学級を実施した。 ・家庭教育学級の実施にあたり、社会教育指導員と内容を検討し、家庭教育アドバイザーも活用した。 ○「親の学習」講座の推進 ・全19小学校において、就学時に保護者を対象に「親の学習」講座を実施した。 ・豊里中学校(雪のため中止)を除く、9中学校の保護者を対象に「親の学習」講座を実施した。 ○家庭教育だより「まごころ」の発行 ・年3回発行した。(計19,500部) ・配布形態を、幼保小中の各家庭に配布する形から、自治会回覧方式に変更した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	・「まごころ」の配布形態を自治会回覧方式に変更した。これにより、これまで「まごころ」を届けることができなかった家庭にも届けることが可能となったため、地域の中における家庭教育力の推進に繋げていけるよう検討していきたい。	
<b>評価コメント</b>	・家庭教育学級は、実施回数は減少したが参加者の増加が見られ、各公民館ごとに計画的に実施することができた。 ・成果指標である「親の学習」講座の実施件数は、前年度の倍以上となる9回実施することができた。 ・「まごころ」の配布形態を自治会回覧方式に変更したことにより、より多くの家庭に届けることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・成果指標である「親の学習」講座の実施回数は、昨年度の倍以上の9回に増え、家庭と連携を図る地道な講座を着実に実施しており、評価できる。 ・家庭教育学級を公民館で開催することは、色々な地域の方が寄り合えるので、良いことである。会場では、参加者全員が発言できる機会を設けてほしい。
--------------	---

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	家庭教育学級事業	<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	家庭教育学級の内容等を公民館と検討し、実施する。		
<b>平成27年度 の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全12公民館において、「親の学習」講座を中心として、「人権学習」、「親子料理教室」や「音楽鑑賞会」など家庭教育学級を実施した。</li> <li>・家庭教育学級の実施にあたり、社会教育指導員と内容を検討し、家庭教育アドバイザーも活用した。</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	家庭教育学級の実施回数	32回	前年度(33回)より実施回数は減少している。
	家庭教育学級の参加者数	2,415人	実施回数は減少したが、参加者数は前年度(2,353人)より増加している。
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	1	天候の都合により、中止となることも有り、実施回数は減少しているが、市内各公民館で実施できており、全体的な参加者は増加している。各公民館が社会教育指導員と相談しながら計画的に事業を行うことができています。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

<b>重点施策名</b>	家庭教育事業	<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	「親の学習」講座を新小学1年生及び新中学1年生の保護者に対して実施する。また、家庭教育だより「まごころ」を年3回発行する。		
<b>平成27年度 の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「親の学習」講座の推進</li> <li>・全19小学校において、就学時に新1年生の保護者を対象として「親の学習」講座を実施した。</li> <li>・積雪のため中止となった豊里中学校を除く9中学校の新1年生保護者を対象に「親の学習」講座の実施した。</li> <li>○家庭教育だより「まごころ」の発行</li> <li>・年3回発行した。(19,500部)</li> <li>・配布形態を、幼保小中の各家庭に配布する形から、自治会回覧方式に変更した。</li> <li>・配布形態の変更により、前年度(55,200部)よりも発行部数を大きく減らし、コストダウンを図るとともに、より多くの家庭に届けることができた。</li> </ul>		
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>
	「親の学習」講座の実施回数	28回	「親の学習」講座を全19小学校及び9中学校の保護者(豊里中は降雪のため中止)を対象に実施した。
	「親の学習」講座の参加者数	1,644人	「親の学習」講座の参加者数は前年度(1,483人)よりも増加している。
	「まごころ」年間発行部数	19,500部	「まごころ」は配布形態を自治会回覧方式に変更したため、発行部数は減少した。
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>	
	3	中学保護者を対象とした「親の学習」講座を全10校を対象に実施していきたい。また、参加者の増員が図れるよう、実施形態を検討する。「まごころ」については、配布形態の変更により、発行部数は減少したが、これまでよりも目にする人は増加している。地域の中の家庭教育促進に繋げていきたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

基本目標Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

Ⅳ-2

<b>施策名</b>		地域の教育力の向上		<b>点検評価表 作成課</b>		生涯学習スポーツ振興課		
<b>施策の方向性</b>		○子どもたちの居場所づくりや学習支援などを行う環境を整備するにあたり、地域住民の積極的な参加を促進します。 ○ボランティア意識の高揚を図り、社会参加活動や青少年健全育成の取組を促進します。						
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○世代間交流事業の推進			○ボランティア活動の促進			
		○放課後子ども教室の推進			○青少年健全育成活動の促進			
		○学校応援団の推進						
		○学校教育・社会教育の連携						
<b>指標名</b>		「がんばル〜ム」に参加した児童の満足度						
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	参加児童に対しアンケートを行い、児童が「満足した」と回答した割合	66.8%	73.7%	94.5%	95.1%	92.0%		
		現状値 (平成23年度)		66.8%	→		目標値 (平成29年度)	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○小学生学習支援事業 ○学校応援団推進事業の充実 ○深谷の子「6つの誓い」の活用(再掲)	
<b>平成27年度 実績</b>	○世代間交流事業の推進 ・全12公民館で各種学級講座等を開催し、11,673人の参加があった。前年度(11,326人)よりも増加した。 ○放課後子ども教室の推進 ・がんばル〜ムを全19小学校で実施した。 ○学校応援団の推進 ・学校支援者補償制度に加入し、安心して学校応援活動を行うことができた。 【主な取組内容】授業の補助、登下校の安全管理、部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、校内の環境整備、学校行事の運営支援など ・各小・中学校における活動費用の補助を行った。 ○学校教育・社会教育の連携 ・小・中学校において「親の学習」を開催した。 ○ボランティア活動の促進 ・ふかや市民大学連絡協議会へボランティア情報を提供した。 ・市民大学の講座で、「学校支援ボランティア講座」を実施した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	・「がんばル〜ム」については参加者数が横這いであるため、少ない小学校の参加者を増加させたい。	
<b>評価コメント</b>	・各公民館にて各種学級講座及び世代間交流事業を実施し、参加者も徐々に増加している。 ・成果指標であるがんばル〜ムの参加児童の満足度は、全体的には若干下がったが、依然として9割以上の満足度をキープしている。 ・市民大学でのボランティア講座の実施や情報提供等により、ボランティア活動を促進することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

<b>意見・提言</b>	・がんばル〜ムは、成果指標である参加した児童の満足度が高く、運動の機会も提供しており、非常に素晴らしい取組である。今後も継続してほしい。
--------------	--



# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	小学生学習支援事業		<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ推進課
<b>概要</b>	児童の休日の居場所作り、有意義な活動機会を提供するため、全小学校において、毎週土曜日の午前中、学習支援事業「がんばル～ム」を実施する。			
<b>平成27年度 の実績</b>	・全19小学校で、「がんばル～ム」を実施した。(夏季等長期休暇及び各学校の行事の無い日、天候等による中止を除く。)			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	がんばル～ム実施回数(全小学校)	560回	天候等により急遽中止とした時もあったが、各学校と協力し、迅速な対応ができた。	
	がんばル～ム参加者数(全小学校)	958人	各学校により参加者にバラつきがあるため、少ない学校は増えるよう周知していきたい。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	国語、算数の自主学習を中心に実施しているが、平成27年度は、ふっかちゃんダンス、軽運動教室等体を動かすことも取り入れ、参加した子どもたちからも好評であった。今後も自主学習支援を基本とし、過ごしやすい居場所づくりを目指したい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	学校応援団推進事業の充実		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	学校、家庭、地域が一体となった教育(市民との協働)を推進し、学校や地域の教育力を高める。			
<b>平成27年度 の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各小・中学校に学校応援コーディネーターを配置し、学校支援活動が行われた。</li> <li>・学校応援団を対象とした傷害保険に加入し、地域のボランティアによる学習支援、登下校の安心・安全の確保、環境整備、中学校における部活動補助等の学校支援活動を安心して進めることができた。</li> <li>・支援活動日数(述べ日数)も目標値の5,800日(29校×200日:学校応援団の活動が市内全小・中学校で毎日行われることを想定)を上回り、7,100日の支援活動が行われた。</li> <li>・各小・中学校における活動費用(消耗品の購入等)の補助をしたことで、各小・中学校の学校応援団の活動を円滑に行うことができた。</li> <li>・学校応援団推進連絡協議会を設置し、活動実践事例や人材の共有、組織の整備等について協議した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	学校応援コーディネーターの配置状況	100% (29校/29校)	市内全小・中学校に学校応援コーディネーターを配置した。	
	学校応援団活動の支援活動目標日数に対する実際の支援活動日数の割合	122.4% (7,100日/5,800日)	学校応援団の活動が市内全小・中学校で毎日行われることを想定し、29校×200日＝5,800日を目標値とした。小学校では児童の登下校の安心・安全に係る支援、中学校では部活動における支援が多かった。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	学校応援コーディネーターを中心に、学校支援活動を行うことができた。今後は更に地域が学校を応援する体制を拡充したい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	深谷の子「6つの誓い」の活用		<b>担当課</b>	学校教育課
<b>概要</b>	【青淵学びの郷づくり】学校・家庭・地域が一体となり、第2、第3の渋沢栄一翁を育てる基盤づくりを力強く推進するために、栄一翁の心を受け継ぐ深谷の子「6つの誓い」の取組を行う。			
<b>平成27年度 の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深谷市内各幼稚園、小・中学校、市役所、公民館、総合支所にチラシ及びポスターを配布した。</li> <li>・深谷市内各幼稚園、小・中学校の全園児・児童・生徒にチラシを配布し、各家庭に知らせた。</li> <li>・8月5日深谷市教育委員会開催の深谷市誕生10周年記念事業において、市内各小・中学校の取組を紹介した。</li> <li>・深谷市教育委員会のホームページに掲載し、各校の「6つの誓い」についての取組を紹介するとともに、各園、小中学校のホームページでも随時取組を紹介している。</li> <li>・市内の各種団体(子どもサポート市民会議、自治会連合会支会長会議等)の集会でチラシを配布し取組を紹介した。</li> <li>・手紙でつむぐ「ありがとう」の思いの内容例の中に、「6つの誓い」の取組を通した「ありがとう」の思いを入れ、募集した。</li> <li>・市内自治会全自治会に回覧し、「6つの誓い」の内容を市民に知らせ、深谷市及び学校の道徳教育に関する市民の関心を高めた。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	チラシの配布	100% (39/39)	市内各幼稚園、小・中学校の全園児、児童、生徒に配布した。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	市内各小中学校での実践を、深谷市教育委員会や各校のホームページで紹介するなど、各学校の取組を支援することができた。各種団体の集会時に、チラシを配布するなど、市民へも知らせた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



基本目標 V 生涯を通じた学習活動の推進

V-1

<b>施策名</b>	学習機会の提供と学習活動の支援	<b>点検評価表 作成課</b>	生涯学習スポーツ振興課
<b>施策の方向性</b>	○学習情報の提供、指導者の育成や確保など、生涯学習を推進するための体制を整備します。 ○多様化する学習ニーズに対応できるよう、講座・教室等の充実を図ります。		
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○生涯学習推進体制の整備・充実	○市民大学の推進	
	○指導者の育成・確保	○子ども体験学習の推進	
	○学習情報の収集と提供	○放課後子ども教室の推進(再掲)	
	○講座・教室の充実		

<b>指標名</b>	「ふかや市民大学」の満足度							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	受講生に対しアンケートを行い、 受講生が講座全体に関して「満足した」と回答した割合	93.7%	98.0%	98.0%	98.0%	96.7%		
		現状値 (平成23年度)		93%	➡	目標値 (平成29年度)		95%

<b>平成27年度 重点施策</b>	○市民大学運営事業
------------------------	-----------

<b>平成27年度 実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導者の育成・確保                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・親の学習等の講師として、家庭教育アドバイザーを活用した。</li> </ul> </li> <li>○講座・教室の充実                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン講習会を深谷・上柴公民館において開催した。また、各公民館において各種講座を実施した。</li> </ul> </li> <li>○市民大学の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民大学を開催し、全20回講座を実施した。各班活動も実施し、成果発表することができた。</li> <li>・市民大学運営委員会による市民大学講座の見直しを行い、次年度にむけた講座の計画を立てることができた。</li> </ul> </li> <li>○子ども体験学習の推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども体験学習については、毎年他で同時期に類似した教室が実施されていたため、平成27年度においては未実施とした。</li> </ul> </li> <li>○放課後子ども教室の推進(再掲)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばル〜ムを全19小学校で実施した。</li> </ul> </li> </ul>
----------------------	---

<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	・子ども体験学習については、類似教室の開催を避けるために未実施としたが、夏季休暇中の子どもたちが充実した時間を過ごせるよう、改めて検討したい。
-----------	---

<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民大学の応募者数が定員を上回った。また、成果指標である満足した受講者の割合は若干減少したが、引き続き高い数値を継続できた。</li> <li>・各公民館において各種講座を実施し、地域ごとに学習機会の支援ができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>
---------------	---


<b>意見・提言</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふかや市民大学は、満足度も高く、参加者も多い、市民に求められている事業なので、今後も継続してほしい。</li> <li>・自然に触れる機会の少ない子ども達が、田植えなどを体験できる事業があるとよい。</li> </ul>
--------------	--

# 重点施策評価表

重点施策名	市民大学運営事業	担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	市民のボランティア意識の高揚を促進するため、深谷の歴史や社会貢献活動等の講座を実施する。また、平成28年度以降3か年のカリキュラム見直しに取り組む。		
平成27年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民大学を開催し、全20回講座を実施した。各班活動も実施し、成果発表することができた。</li> <li>・市民大学運営委員会による市民大学講座の見直しを行い、次年度にむけた講座の計画を立てることができた。</li> </ul>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	市民大学応募者数	98人	募集人員(80名)を大幅に上回る応募があった。
	市民大学講座回数	20回	全20回すべての講座を実施することができた。
市民大学運営委員会の開催回数	5回	運営委員会において、カリキュラムの見直しを図った。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	市民大学については、募集定員を上回る応募が有り、年間をとおして全20回の講座を実施できた。市民大運営委員会では、次年度に向けてカリキュラムの見直しを図った。また、卒業生によるふかや市民大学校友会に対して、ボランティア情報の提供等支援を行った。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

基本目標 V 生涯を通じた学習活動の推進

V-2

<b>施策名</b>		活動施設の整備・充実						<b>点検評価表 作成課</b>	生涯学習スポーツ振興課
<b>施策の方向性</b>		○生涯学習活動施設の整備・充実を図ります。 ○生涯学習活動施設の利用方法の改善を図ります。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○公民館の整備・充実							
<b>成果指標</b>	<b>指標名</b>	公民館利用者数							
	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内12公民館の年間利用者数	526,157名	518,570名	513,817名	529,772名	538,740名			
		<b>現状値 (平成22年度)</b>		523,505名		<b>目標値 (平成29年度)</b>		530,000名	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○公民館施設整備維持事業 ○公民館体育室の改修	
<b>平成27年度 実績</b>	○公民館の整備・充実 ・利用者の安全、利便性を確保するため各公民館において各種修繕を行った。 ・公民館の体育室における天井等落下防止対策工事を実施するため、設計業務を委託し完了した。 ・岡部公民館建設に向けて、土地収用法の事業認定に係る自然環境調査を実施した。 ・川本公民館建設に向けて、川本公民館建設協議会を発足させ、建設に向けた協議を開始した。	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	・老朽化した公民館施設について維持管理コストの増加が懸念される。 ・図書館、総合支所を含んだ複合施設として建設予定となっている岡部公民館について、設計業務を実施する上で、庁内各担当課と協議が必要となる。	
<b>評価コメント</b>	・各公民館においては、各種修繕を適正に行うことができた。 ・幡羅、大寄、豊里の3公民館については、天井等落下防止対策工事に向けて設計業務を実施した。 ・成果指標である市内12公民館の年間利用者数は、前年度より増加し、目標値を上回った。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	
<b>意見・提言</b>	・成果指標である公民館の年間利用者数は増加しており、評価できる。 ・深谷には素晴らしい公民館があるので、地域の方々が活動に専念できるように、引き続き整備・充実を図ってほしい。	

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	公民館施設整備維持事業		<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	岡部公民館建設に向けて、用地取得等の事務を進める。また、川本公民館建設については、建設協議会発足をを目指す。			
<b>平成27年度 の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岡部公民館建設に向けて、建設予定地を決定し、農振除外申請、自然環境調査等の事務を進めた。</li> <li>・川本公民館建設に向けて、川本公民館建設協議会を発足し協議を開始した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	岡部公民館建設に係る自然環境調査回数	2回	土地収用法の事業認定申請のため、秋・春の2回に分けて建設予定周辺の自然環境調査を実施した。	
	川本公民館建設協議会会議回数	2回	川本公民館建設に向け協議を開始した。今後施設について具体的な協議を進めていく。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	岡部公民館については、建設予定地の決定し、農振除外の申請、自然環境調査等を実施、建設に向けてほぼスケジュール通りの事務執行ができた。川本公民館についても、岡部同様に建設協議会を発足し、協議を開始することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>重点施策名</b>	公民館体育室の改修		<b>担当課</b>	生涯学習 スポーツ振興課
<b>概要</b>	利用者の安全確保のため、非構造部材の耐震対策として、吊り天井となっている3公民館(幡羅、大寄、豊里)体育室の天井等落下防止対策工事に伴う設計業務委託を実施する。			
<b>平成27年度 の実績</b>	幡羅公民館、大寄公民館、豊里公民館の3館について体育室天井等落下防止対策工事設計業務を委託し、落下防止対策工事に係る設計業務を行った。これに基づき、次年度(平成28年度)以降工事に入る予定である。			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	体育室天井等落下防止対策工事設計業務を行った館数(計画数3館)	3館	計画通り、3館(幡羅、大寄、豊里)の設計業務を実施した。	
<b>担当課 評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	1	体育室が吊り天井となっている幡羅、大寄、豊里の3公民館について、天井等落下防止対策工事に向けた設計業務を委託し、完了した。来年度以降着工する予定である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標 V 生涯を通じた学習活動の推進

V-3

<b>施策名</b>		図書館の整備・充実				<b>点検評価表作成課</b>		図書館	
<b>施策の方向性</b>		○利用者の多様なニーズに配慮しながら、図書館資料を収集、整備、保存し、蔵書の充実を図ります。 ○施設設備の老朽化による不具合を修繕するなど利用者にとって快適な環境づくりを進めます。 ○貸出し処理等の迅速化を図るなど利用者へのサービスを充実させ、利用者の拡大に努めます。							
<b>施策に関連する主な取組</b>		○図書館資料の整備・充実 ○利用者へのサービスの充実 ○読書活動の促進 ○利用者の利便性向上のための施設設備の充実							
<b>指標名</b>		資料貸出点数							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	図書館4館及びLフォルテの年間貸出点数の合計(資料とは、図書資料、視聴覚資料、雑誌の総合計とする。1年度3,000点の増とする)	712,427点	694,783点	658,686点	595,227点	611,457点			
		現状値 (平成27年度)		690,105点	→	目標値 (平成29年度)		708,000点	
<b>平成27年度重点施策</b>		○図書館活動体験事業の実施							
<b>平成27年度実績</b>		○図書館資料の整備・充実 ・一般書から児童書まで、利用者からの要望に沿った資料を購入する一方、図鑑、事典など基本図書も継続的に購入を進め、全体的にバランスの取れた図書資料を精選の上購入した。 ・DVD機器の一般家庭への普及に対応し、人気の高い視聴覚資料のビデオテープからDVDディスクへの移行を進めた。  ○利用者へのサービスの充実 ・平成27年度で、窓口業務の民間委託が3年目を迎え、平成28年度から始まる新たな委託契約に向けての調査研究を行った。 ・埼玉工業大学図書館のほか東都医療大学図書館との連携協力を開始し、図書館ホームページに大学図書館とのリンクを設定した。  ○読書活動の促進 ・市内保育園、幼稚園、小・中学校に読書活動に関するアンケート調査を行った。 ・「ブックスタート」「赤ちゃんタイム」「おはなし会」「えいが会」などの乳幼児～小児対象の事業や、「読み聞かせボランティア養成講座」「古典文学講座」などの専門性・趣味性の高い講座など、従来からの図書館利用者以外でも参加しやすい事業を展開した。  ○利用者の利便性向上のための施設設備の充実 ・新図書館システムの導入を行った。 ・深谷館のトイレの修繕、川本館の空調機器の修繕を行い、使用者の利用環境の向上に努めた。							
<b>総合評価</b>		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
<b>課題</b>		・各学校図書主任との連絡協議の場において、連携を深められるよう工夫する必要がある。 ・館内の新規図書資料収蔵環境が整いつつあるので、計画的な資料の更新を進めていく必要がある。 ・年間貸出点数が増加するよう、利用者のニーズに沿った資料選定を進めていく必要がある。							
<b>評価コメント</b>		・第2次子ども読書活動推進計画の策定に向けて、市内保育園、幼稚園、小・中学校における読書活動のアンケート調査を行い、基礎的な資料の収集に努め、その結果を図書館ホームページに公表し、また各学校等にフィードバックすることができた。 ・新システムの導入により、経費の節減になった。また利用者へのより多くのサービスを提供することができた。 ・図書館主催事業は総じて好評を得ている。特に乳幼児～小児を対象とした読み聞かせ・おはなし会などは、参加者の増加が認められ、子どもたちのみならず、保護者も含め利用者の拡大をすることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
<b>意見・提言</b>		・図書館活動体験事業は、児童生徒が選書を体験する非常にユニークで面白い取組である。今後も継続を期待したい。 ・毎年増加する図書館資料については、適切な管理と利用者の利便性の向上を期待したい。							



# 重点施策評価表

重点施策名	図書館活動体験事業の実施		担当課	図書館
概要	小・中学生を対象とする図書館購入図書の選書体験事業を開催し、図書館の仕組みを知ってもらうとともに、子どもたちの図書への関心を高めるきっかけを提供する。			
平成27年度の 実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験し、選書した図書については購入後に図書館に展示した上で貸出を行った。</li> <li>・参加した子どもは小学1年生から中学1年生までにわたり、「絵本」「読み物」「調べもの」などの様々なジャンルの児童書が選書できた。</li> <li>・参加した子どもや付き添いの保護者へのアンケート結果では、今後も同事業の継続を希望する声が多かった。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	選書事業への参加者数(付添い含む。)	18名	開催時期がお盆時期と重なったため、当初予想よりも参加者が少なかった。	
	選書した図書資料冊数	19冊	ひとり上限2冊までの制限を設けて選書を行った。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	今後も選書体験事業の一層の充実を図るとともに、選書以外の図書館での仕事体験を取り込む等により子どもや保護者へのアピールを図っていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標VI 深谷らしい文化の創造

VI-1

<b>施策名</b>	渋沢栄一翁の顕彰		<b>点検評価表 作成課</b>	渋沢栄一記念館				
<b>施策の方向性</b>	○渋沢栄一翁の顕彰のために資料の収集や調査・研究を行い、その成果を市内外に発信します。 ○「渋沢栄一翁ゆかりの史跡」を整備し、その活用を推進します。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信							
	○渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用							
<b>指標名</b>	渋沢栄一ゆかりの施設見学者数							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	1年間における誠之堂・清風亭 及び中の家の見学者の合計	18,120名	15,421名	16,331名	30,420名	24,390名		
		<b>現状値</b> (平成22年度)		15,000名		<b>目標値</b> (平成29年度)		18,000名

<b>平成27年度 重点施策</b>	○渋沢栄一記念館の充実 ○渋沢栄一翁と論語の里整備活用事業	
------------------------	----------------------------------	--

<b>平成27年度 実績</b>	<p>○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会の開催を通じ、栄一翁の事績に関する専門的な研究成果を公開した。</li> <li>・栄一塾や史跡めぐりを開催し、栄一翁と郷土八基との関係を学ぶとともに、東京に残る栄一翁ゆかりの場所を巡り、栄一翁の活動の一端に触れる機会を提供した。</li> <li>・渋沢栄一記念館資料室の常設展示替えを行うとともに企画展を開催した。</li> <li>・見学者への展示資料の解説に対応するため、資料室に資料解説員を配置した。</li> <li>・「論語の里」散策のためのガイド機能を持つ「論語の里」アプリケーションの開発を行った(平成28年4月1日リリース)。</li> </ul> <p>○渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「渋沢栄一翁と論語の里整備活用計画」に基づき、旧渋沢邸「中の家」及び尾高惇忠生家の駐車場整備と施設の案内板、解説板の設置工事を行った。</li> <li>・ボランティアガイド養成講座を開催した(全5回、延べ58人参加)。</li> <li>・ボランティア団体「渋沢栄一翁と論語の里ガイドボランティア」が発足した。</li> </ul>	
----------------------	---	--

<b>総合評価</b>	<b>B</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顕彰には企画展やイベントを通して、さらなる情報発信を行うことが必要である。</li> <li>・「論語の里」の見学環境を整えるためにも、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の速やかな改修整備が必要である。</li> <li>・ボランティア団体が発足したばかりなので、支援体制を整えることが必要である。</li> </ul>	
-----------	---	--

<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・旧渋沢邸「中の家」及び尾高惇忠生家の駐車場整備、案内標識や解説板の設置が進んだが、改修整備の実現まで、まだ多くの課題がある。</li> <li>・ボランティアガイド養成活動が、ボランティアガイドによる団体結成の形で結実した。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「B」とする。</li> </ul>	
---------------	--	--

<b>意見・提言</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋沢栄一翁は、郷土が生んだ偉人であり、関連施設の保存整備を進め、後世に残して欲しい。</li> </ul>	
--------------	---	--

# 重点施策評価表

<b>重点施策名</b>	渋沢栄一記念館の充実		<b>担当課</b>	渋沢栄一記念館
<b>概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展を開催し、渋沢栄一翁の様々な功績を提示することで、新たな見学者の受入環境を整える。</li> <li>見学者への展示資料の解説に対応するため、資料室に資料解説員を配置する。</li> </ul>			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示の見直しを行い、展示物や解説板の入れ替えを行った。</li> <li>3回の企画展を行った。（「新収蔵品展」、「渋沢栄一と企業～澁澤倉庫株式会社」、「友情人形歓迎展～青い目の人形」）</li> <li>資料室に資料解説員を配置し、見学者への対応を行った。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	常設展見学者数	9,698人	春、夏、冬に展示の入れ替えを実施することができた。	
	企画展見学者数	8,262人	3回開催することができた。	
	資料解説員配置日数	358日	年末年始、休館日以外の全日配置を実現した。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	2	常設展の見直し、新たな企画展の立案・開催を継続し、引き続き見学者の受入れ体制の充実を図っていきたい。		
評価区分の考え方（1：現状継続 2：見直して継続 3：拡充・重点化 4：事業達成により終了 5：廃止を検討）				

<b>重点施策名</b>	渋沢栄一翁と論語の里整備活用事業		<b>担当課</b>	渋沢栄一記念館
<b>概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「渋沢栄一翁と論語の里整備活用計画」に基づき、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の改修整備を行う。</li> <li>ボランティアガイドの育成・支援に取り組む。</li> </ul>			
<b>平成27年度の実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧渋沢邸「中の家」及び尾高惇忠生家の駐車場を整備し、両施設に関する案内標識及び解説板を設置した。</li> <li>ボランティアガイド養成講座を実施した。</li> <li>ボランティア団体「渋沢栄一翁と論語の里ガイドボランティア」が発足した。</li> </ul>			
	<b>指標名</b>	<b>実績値</b>	<b>指標別コメント</b>	
	1年間における誠之堂・清風亭及び中の家の見学者の合計	24,390名	富岡製糸場が世界遺産に登録された平成26年度より減少したが、登録以前の見学者数よりも約8,000人上回ることができた。	
	ボランティアガイド養成講座の開催回数	5回	講演会、講座、見学会など内容をバランス良く構成し、実施することができた。	
	ボランティアガイド養成講座の受講者延数	58名	ボランティアガイド団体組織化の基盤ができた。	
<b>担当課評価</b>	<b>評価区分</b>	<b>評価コメント</b>		
	3	「渋沢栄一翁と論語の里整備活用計画」に基づき、旧渋沢邸「中の家」、尾高惇忠生家の調査、設計、改修を実施していく必要がある。また、発足したガイドボランティア団体の活動支援を行い、「論語の里」を発信源とする市民活動の定着を促していきたい。		
評価区分の考え方（1：現状継続 2：見直して継続 3：拡充・重点化 4：事業達成により終了 5：廃止を検討）				

<b>施策名</b>	伝統文化の保存・継承と活用		<b>点検評価表 作成課</b>	文化振興課				
<b>施策の方向性</b>	○文化財の調査・記録化を実施するとともに、指定を通じ、保存のための措置を講じます。 ○各種イベントの開催を通じて、文化財を活用しながら、市内の伝統文化のすばらしさを伝えていきます。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○文化財の調査、保護、管理と活用			○文化財保護思想の高揚				
	○埋蔵文化財の保護、保存							
	○民俗芸能の保存と継承							
	○文化財施設の整備・活用							
<b>指標名</b>	普及公開事業数							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内で行う講演会、展覧会の年間開催数	10回	11回	9回	15回	12回		
		現状値 (平成23年度)		10回	➡		目標値 (平成29年度)	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○日本煉瓦保存整備事業	
<b>平成27年度 実績</b>	<p>○文化財の調査、保護、管理と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市指定有形文化財の現状確認調査(悉皆調査)を行った。</li> </ul> <p>○埋蔵文化財の保護、保存</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種開発に伴い、埋蔵文化財確認調査(70件)・発掘調査(7件)を行った。</li> </ul> <p>○民俗芸能の保存と継承</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無形民俗文化財後継者育成補助事業として文化財所有団体に経費の補助を行った。</li> <li>・無形民俗文化財(大塚獅子舞)の記録保存を行った。</li> </ul> <p>○文化財施設の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誠之堂・清風亭の公開を行った。</li> <li>・旧煉瓦製造施設の公開を行った。</li> <li>・旧煉瓦製造施設の調査工事を実施した。</li> </ul> <p>○郷土の歴史への関心や文化財保護思想の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土の歴史や文化財に関する歴史講座や、史跡特別公開、遺跡見学会等を開催した。</li> <li>・川本出土文化財センターにて企画展「深谷出土の考古資料」を行った。</li> </ul>	
<b>総合評価</b>	<b>A</b>	<p>※総合評価の目安</p> <p>S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない</p>
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発協議を経て発掘調査から報告書刊行までを円滑に行う環境を、今後も維持していく必要がある。</li> <li>・旧煉瓦製造施設の修理工事等を行っていく必要がある。</li> <li>・幡羅遺跡の保存・活用の検討が大きな課題である。</li> </ul>	
<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発に伴う確認調査・発掘調査等は、ほぼ円滑に対応できた。</li> <li>・成果指標である講演会や展覧会の開催数は、目標値通りの回数を開催することができ、多数の参加者があった。</li> <li>・文化財施設や旧煉瓦製造施設の公開や、郷土の歴史や文化財を身近に感じられる企画展等を行うことができた。</li> <li>・重要文化財日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画に基づき、調査工事を実施し、着実に計画を進めることができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</li> </ul>	

<b>意見・提言</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設は、日本の産業を支えた施設であるので、大切に保存してほしい。</li> </ul>
--------------	--

# 重点施策評価表

重点施策名	日本煉瓦保存整備事業		担当課	文化振興課
概要	平成26年度に策定した重要文化財日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画に基づき、国指定重要文化財である旧煉瓦製造施設の保存・活用に必要な維持管理や修理・改修等のために、平成28年度まで2年にわたる調査工事を行う。			
平成27年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホフマン輪窯、旧事務所の地盤調査を行った。</li> <li>・ホフマン輪窯の三次元測量を行った。</li> <li>・ホフマン輪窯の煉瓦構造調査を行った。</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	地盤調査(ホフマン輪窯、旧事務所)の実施割合	100%	建物の支持地盤等を確認するために、ボーリング調査を行った。データに基づく補強案の作成は平成28年度に行う。	
	三次元測量(ホフマン輪窯)の実施割合	66.3%	窯の歪みを確認するために、三次元測量を行った。引き続き平成28年度に行う。	
	煉瓦構造調査(ホフマン輪窯)の実施割合	82.6%	窯の内部構造を確認するために、煉瓦構造調査を行った。引き続き平成28年度に行う。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	今年度は、計画通りに調査工事を行うことができた。平成28年度は、引き続き調査工事を行う。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

<b>施策名</b>	文化・芸術活動の活性化	<b>点検評価表 作成課</b>	文化振興課
<b>施策の方向性</b>	○多様な文化・芸術に触れることができる機会を拡充します。 ○文化団体等の自主的な活動の支援・育成を行います。 ○市にゆかりある美術品の収蔵と展示公開を進めます。 ○地域ゆかりの文化資源の活用を図ります。		
<b>施策に関連する 主な取組</b>	○文化・芸術活動の推進	○地域ゆかりの文化資源の活用	
	○地域における文化活動の連携と推進		
	○文化団体の育成		
	○美術品の収蔵・展示公開		

<b>指標名</b>	文化・芸術事業の参加者アンケートにおける事業の満足度							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	深谷市文化会館で開催するコンサート等の観客からアンケートを行い、「良い」と回答した割合	80%	97%	88%	94%	97%		
		現状値 (平成23年度)		80%	➡	目標値 (平成29年度)		85%以上

<b>平成27年度 重点施策</b>	○子ども芸術文化推進事業 ○地域ゆかりの偉人発掘
------------------------	-----------------------------

<b>平成27年度 実績</b>	○文化・芸術活動の推進 ・アーティストクラブを開催し、子どもたちが、美術・音楽・演劇などの様々な芸術や文化活動に触れる機会を設けることができた。 ・文化芸術による子どもの育成事業を開催し、良質な文化・芸術に触れることができた。 ○地域における文化活動の連携と推進 ・深谷市美術家協会と連携し、深谷市美術展入賞作品展を開催した。 ・NPO法人市民シアター・エフと協働し、優秀映画鑑賞推進事業を開催した。 ○文化団体の育成 ・深谷市文化団体連合会に補助金を交付し、文化・芸術活動の活性化を図った。 ○美術品の収蔵・展示公開 ・市収蔵美術品展を開催した。 ○地域ゆかりの文化資源の活用 ・埼玉県指定有形文化財に指定されている清風亭で、文化遺産コンサートを開催した。 ・「深谷市にゆかりのある人々PartⅣこのひとをしていますか？」と題し、今では語られる機会は少ないが重要な活躍をした人たちの作品等の展示会を開催した。
----------------------	---

<b>総合評価</b>	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる    A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない        C: まったく進んでいない
-------------	---	---

<b>課題</b>	より優れた文化・芸術事業の提供を行うため、多様で良質な文化・芸術事業の企画が必要である。
-----------	--

<b>評価コメント</b>	・子どもたちに対してミュージアムツアーや音楽ワークショップ、茶道体験などを行い、良質な文化・芸術に触れる機会を提供でき、参加者の満足度も高かった。 ・企画展において市内文化団体と協働し、地域の文化を展示紹介できた。 ・市収蔵美術品展を開催し、文化・芸術に触れる機会の提供ができた。 ・清風亭で文化遺産コンサートを開催し、参加者の満足度の高いイベントを提供できた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	---

<b>意見・提言</b>	・成果指標である深谷市文化会館で開催するコンサート等のアンケートの満足度は、非常に高く、評価できる。 ・アーティストクラブは、多方面の芸術に触れることのできる良い事業である。今後も継続してほしい。
--------------	---

# 重点施策評価表


重点施策名	子ども芸術文化推進事業	担当課	文化振興課												
概要	<p>「なぜ」を追求する、ふるさとのことを深く知る、より良く生きるの3分野について「子ども大学ふかや」を実施する。また、「アーティスト倶楽部」を開催し、子どもたちが美術・音楽・演劇などのさまざまな芸術や文化に触れ、実際に体験することで創造性を豊かにし、柔軟な発想を育む機会を提供する。</p>														
平成27年度の実績	<p>・小学生を対象にした「子ども大学ふかや」や、小・中学生を対象にした「アーティスト倶楽部」を開催し、文化・芸術に触れる機会を提供した。</p> <p><b>【子ども大学ふかや】</b>  募集定員50名であったが、70名の申し込みがあり、抽選となった。  8/1 「入学式・英語の歌を歌おう！ Let it go, You are my sunshineなど～」 埼玉工業大学 37名  8/26 「工場見学～アイスクリームができるまでのひみつ～」 赤城乳業(株)本庄千本さくら『5S』工場 49名  9/5 「①包帯を巻いてみよう！ ②車いすを上手に押せるようになろう！」 東都医療大学 40名  10/3 「リニアモーターのしくみをしよう！ 成果発表会準備」 埼玉工業大学 44名  10/24 「体験しよう！ ふるさとの食文化や地域の達人の技(すいとん作り)成果発表会」 ※子ども大学くまがやと合同実施 埼玉工業大学 43名</p> <p><b>【アーティスト倶楽部】</b>  6/7 「プロみたいな写真を撮ってみよう！」 深谷城跡公園 30名  7/5 「オカリナを演奏しよう！」 深谷公民館 22名  7/21・8/4・8/5 「映画を撮ろう！ Part3」 深谷コミセン、深谷城跡公園 18名  11/1 「映画を上映しよう！」 文化協同組合芸術米騒動精米所 13名  11/29 「ミュージアムツアー」 県立近代美術館、さいたま市青少年宇宙科学館 20名  1/24 「茶道を学ぼう！」 深谷城跡公園掃部寮 19名</p> <table border="1" data-bbox="316 1064 1428 1310"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子ども大学の延べ参加者数</td> <td>213人</td> <td>前年度より参加者数は減少した。</td> </tr> <tr> <td>アーティスト倶楽部の実施回数</td> <td>6回</td> <td>前年度より1回多く実施した。</td> </tr> <tr> <td>アーティスト倶楽部の延べ参加者数</td> <td>122人</td> <td>参加者数は前年度とほぼ同じだった。</td> </tr> </tbody> </table>			指標名	実績値	指標別コメント	子ども大学の延べ参加者数	213人	前年度より参加者数は減少した。	アーティスト倶楽部の実施回数	6回	前年度より1回多く実施した。	アーティスト倶楽部の延べ参加者数	122人	参加者数は前年度とほぼ同じだった。
指標名	実績値	指標別コメント													
子ども大学の延べ参加者数	213人	前年度より参加者数は減少した。													
アーティスト倶楽部の実施回数	6回	前年度より1回多く実施した。													
アーティスト倶楽部の延べ参加者数	122人	参加者数は前年度とほぼ同じだった。													
担当課評価	<p>評価区分</p> <p>1</p>	<p>評価コメント</p> <p>市内文化団体や大学などと連携し活発な活動ができた。より効果の高い事業内容で実施できるよう検討していく。</p>													
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>															

# 重点施策評価表

重点施策名	地域ゆかりの偉人発掘		担当課	文化振興課
概要	深谷市にゆかりのある人を発掘・紹介し、より多くの人たちに知ってもらうことを目的に展示等を実施する。			
平成27年度 の実績	<p>・企画展示「深谷市にゆかりのある人々PartⅣこのひとをしっていますか？」を開催した。企画展終了後は、デジタルミュージアムに掲載した。</p> <p>【紹介した人】</p> <p>①横浜生系検査所長 芳賀権四郎                  ②児童文学作家 永井 明                  ③日本の女医第2号 生沢クノ                  ④種豚改良の功労者 笠原五郎吉                  ⑤戦時中に深谷に疎開していた日本画家 菅井雲樵                  ミニ展示 中世武蔵武士</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	企画展の来場者数	355人	来場者数は前年度より減少した。	
	展示に取り上げた人物の数	5人	H25年度6人、平成26年度7人	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	市民文化団体や地域の人を通じゆかりのある人を掘りおこし、市民に紹介できた。企画展後はデジタルミュージアムに掲載した。今後はデジタルミュージアムを効果的に活用できるように検討していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				





<b>施策名</b>		スポーツ・レクリエーション活動の環境整備						<b>点検評価表 作成課</b>	生涯学習スポーツ振興課
<b>施策の方向性</b>		○利用者が安全かつ快適に利用できるよう、より一層の充実した管理・運営を行っていきます。 ○指導者の育成を通じ、スポーツ・レクリエーション活動に、市民が積極的に取り組めるような環境を整備します。							
<b>施策に関連する 主な取組</b>		○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し ○指導者の養成							
<b>指標名</b>		社会体育施設における利用者数							
<b>成果 指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	深谷市総合体育館、市民体育館、岡部B&G海洋センター(体育館)及び市営グラウンドの年間利用者数	343,112名	366,840名	357,664名	418,568名	532,330名			
		<b>現状値 (平成22年度)</b>		374,462名		<b>目標値 (平成29年度)</b>		380,000名	

<b>平成27年度 重点施策</b>	○市営グラウンド・市民体育館の巡視、点検の強化	
<b>平成27年度 実績</b>	<p>○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し 【整備・改修等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川本天神グラウンドテニスコートの人工芝張替を行った。</li> <li>・岡部中央グラウンドの浄化槽の蓋交換を行った。</li> </ul> <p>【利用者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度利用者実績 532,330名(H26実績 418,568名) 前年比113,762名増 (総合体育館:299,829名、市民体育館:123,490名、B&amp;G:16,016名、市営グラウンド92,995名)</li> </ul> <p>○指導者の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ少年団認定員研修会を行った。37名</li> <li>・スポーツ少年団認定員養成講習会を行った。50名</li> </ul>	
<b>総合評価</b>	<b>S</b>	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない
<b>課題</b>	経年による施設の老朽化が進んでおり、毎年いずれかの施設に大規模な改修を要する状況となっている。	
<b>評価コメント</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の修繕箇所数は年々増加傾向にあるが、限られた予算のなかで適切に対応できた。</li> <li>・安全な施設管理と適切な施設整備により、利用者の事故を未然に防止することができた。</li> <li>・成果指標である年間利用者数は大幅に増えており、市民が積極的にスポーツ・レクリエーション活動に取り組める環境の整備を進めることができた。</li> <li>・以上のことから、総合評価は「S」とする。</li> </ul>	

<b>意見・提言</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標である深谷市総合体育館等の年間利用者数は、大幅に増加しており、評価できる。</li> <li>・市民がいつでも気軽に体育館等を利用できるように、利用環境の整備を進めてほしい。</li> </ul>
--------------	--

# 重点施策評価表

重点施策名	市営グラウンド・市民体育館の巡視、点検の強化		担当課	生涯学習 スポーツ振興課												
概要	委託業者(シルバー人材センター)による毎月2回の全市営グラウンド(7か所)の確認・清掃業務及び市職員による毎朝の市民体育館の点検・巡視を実施する。															
平成27年度 の実績	<p>【市営グラウンド確認管理業務委託】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受託者 深谷市シルバー人材センター</li> <li>・対象施設 7か所(中瀬グラウンド、岡部中央グラウンド、岡部東グラウンド、川本天神グラウンド、川本グラウンド・ゴルフ場、植松グラウンド、上本田グラウンド)</li> </ul>															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="316 582 730 627">指標名</th> <th data-bbox="730 582 917 627">実績値</th> <th data-bbox="917 582 1428 627">指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="316 627 730 694">市営グラウンド確認回数</td> <td data-bbox="730 627 917 694">24回</td> <td data-bbox="917 627 1428 694">専属職員による確認管理業務のため、細部の状況が点検できた。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="316 694 730 761">職員による市民体育館の点検・巡視</td> <td data-bbox="730 694 917 761">勤務時毎日 (242回)</td> <td data-bbox="917 694 1428 761">日々の変化が確認できたため、利用者の事故防止に繋がった。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="316 761 730 840"></td> <td data-bbox="730 761 917 840"></td> <td data-bbox="917 761 1428 840"></td> </tr> </tbody> </table>			指標名	実績値	指標別コメント	市営グラウンド確認回数	24回	専属職員による確認管理業務のため、細部の状況が点検できた。	職員による市民体育館の点検・巡視	勤務時毎日 (242回)	日々の変化が確認できたため、利用者の事故防止に繋がった。				
	指標名	実績値	指標別コメント													
	市営グラウンド確認回数	24回	専属職員による確認管理業務のため、細部の状況が点検できた。													
職員による市民体育館の点検・巡視	勤務時毎日 (242回)	日々の変化が確認できたため、利用者の事故防止に繋がった。														
担当課 評価	評価区分	評価コメント														
	1	<p>業務委託での市営グラウンド(7か所)の定期的な点検業務を実施により細部にわたる状況確認を行い、また毎朝の市職員による市民体育館の点検を行った結果、事故は0件であった。 ただし、市民体育館は昭和42年建設で老朽化が著しく、今後の運営に注意を要する。</p>														
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>																

<b>施策名</b>		スポーツ・レクリエーション活動の活性化						<b>点検評価表作成課</b>	生涯学習スポーツ振興課
<b>施策の方向性</b>		○スポーツ・レクリエーション団体やスポーツ推進委員を核に、本市の地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。 ○多くの市民がスポーツ・レクリエーション大会・教室等へ参加するきっかけを作るため、情報の提供・周知を図ります。							
<b>施策に関連する主な取組</b>		○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ○スポーツ推進委員との連携の強化							
<b>指標名</b>		スポーツ・レクリエーション活動の活性化							
<b>成果指標</b>	<b>指標の説明</b>	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	体育協会、レクリエーション協会及びスポーツ少年団並びに市が主催した大会・教室の年間参加者数	28,322名	30,688名	33,584名	27,464名	28,893名			
		現状値 (平成22年度)		21,702名	➡		目標値 (平成29年度)		23,000名
<b>平成27年度重点施策</b>		○スポーツ教室・イベント開催事業							
<b>平成27年度実績</b>		○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ・第10回ふかやシティハーフマラソンを開催し、5,882名が参加した。 ・市民大運動会を市民協働により開催し、全公民館の協力を得て盛大に開催できた。  ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ・体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団の加盟団体が主催する各種大会・教室等の広報支援として広報ふかややホームページへの掲載を行った。  ○スポーツ推進委員との連携の強化 ・会合を定期的に設け委員との連絡調整を密にした。また、これまで行ってきた軽スポーツ教室に代わり、がんばルームに参加する子ども達の体力向上を目的とした子どもスポーツ支援を行った。							
<b>総合評価</b>		<b>S</b>		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる    A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない        C:まったく進んでいない					
<b>課題</b>		多様化・高度化するスポーツ・レクリエーションへのニーズに応えるため、指導者を養成する必要がある。							
<b>評価コメント</b>		・第10回ふかやシティハーフマラソンが問題なく開催でき、各種大会や教室等についても充実してきている。 ・成果指標である年間参加者数は、24、25年度と比較が少ないが、前年度と目標値を上回った。 ・以上のことから、総合評価は「S」とする。							
<b>意見・提言</b>		・ふかやシティハーフマラソンは、昨年度と比べてエントリー数が増えて、事故もなく終わることができており、評価できる。今後も続けてほしい。 ・スポーツ施設の利用に関する情報提供の充実を期待したい。							

# 重点施策評価表

重点施策名	スポーツ教室・イベント開催事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	市民が積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加する機会を提供し、生涯を通して健康的な生活を営むことを目的として、ふかやシティハーフマラソンを始めとする各種大会や教室開催支援を行う。			
平成27年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第10回ふかやシティハーフマラソンエントリー数 6,154名</li> <li>・鴨んバレー大会、体力測定、がんばルーム(子どもスポーツ支援)の参加者数 391名</li> </ul>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	第10回ふかやシティハーフマラソンに参加したボランティアの人数	1,049名	マラソン大会ボランティアの高校生が期末テストと重なり若干の減少となった。	
	市民大運動会参加人数	1,800名	全公民館の協力を得て盛大に開催できた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	第10回ふかやシティハーフマラソンは、6,000名を超えるエントリーがあり、深谷市体育協会加盟団体をはじめとする1,000名を超える市民ボランティアにより盛大に開催できた。各種大会や教室等については、軽スポーツ教室を廃止し、がんばルームへの子どもスポーツ支援へ切り替えた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

## 6 結びに

深谷市教育委員会では、本市教育行政の基本計画である深谷市教育振興基本計画に基づいて、教育行政を推進しています。

平成28年度の点検評価では、深谷市教育振興基本計画の25施策すべてを対象に、平成27年度に執行した各施策の点検評価を実施しました。

その結果、25施策中、3施策に対して総合評価「S」（計画以上に進んでいる）と、21施策に対して総合評価「A」（ほぼ計画通りに進んでいる）と評価することができましたが、1施策に対して総合評価「B」（あまり進んでいない）となりました。

今後も、社会情勢の変化を踏まえながら、深谷市教育振興基本計画に基づき、目標に向け着実に推進していくとともに、今回の点検評価で課題とされた点については事業の改善等を図っていきたいと考えています。また、教育行政の推進にあたっては、教育委員会と市民、地域及び関係機関が連携し、一体となった取組を推進していきたいと考えています。

最後に、今回の点検評価を行うにあたり、その客観性を確保する観点から、次の点検評価者にご意見及びご提言をいただきました。この場を借りましてお礼申し上げます。

篠原 善廣	立正大学法学部非常勤講師
根岸 雅子	深谷市社会教育委員

なお、施策ごとの総合評価及び点検評価者のご意見及びご提言の要旨を次のとおり一覧で示します。

施策名	総合 評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
I－(1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	A	子育てひろばの満足度が2年連続で100%となったことが評価されました。	4
I－(2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	A	深谷市チャレンジ、中学生補習学習運営事業の実施が評価されました。アシスタントティーチャーの活用について提言を受けました。	8
I－(3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	A	小学校3年生からの早期の外国語活動が評価されました。外国語指導助手(ALT)の積極的な活用について提言を受けました。	12
I－(4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	A	ICT機器の整備が県内でトップクラスであることが評価されました。	16
I－(5) 高い志をもつキャリア教育の推進	A	1/2成人式、立志式及び中学校社会体験チャレンジの実施が評価されました。	18
I－(6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	A	通常学級に在籍する障害のある児童生徒の個別指導計画の作成率の高さ及び特別支援学級へのiPadの導入が評価されました。	22
II－(1) まごころと思いをやりをはぐくむ教育の推進	A	深谷の子「6つの誓い」の活用について評価されました。渋沢栄一翁が大切にされた忠恕の心を受け継ぐ教育の推進について提言を受けました。	26
II－(2) いじめ・不登校の防止	S	不登校児童生徒の割合が非常に低いことが評価されました。	30
II－(3) 生徒指導の充実	A	児童生徒の暴力行為の発生件数の減少が評価されました。問題行動を未然に防ぐ取組について提言を受けました。	34
II－(4) 人権を尊重した教育の推進	A	非行防止教室への保護者の参加人数の増加が評価されました。ネットトラブルに陥らないように学校での指導の必要性について提言を受けました。	36
II－(5) 健康の保持増進	A	朝食欠食の解消への取組と、各学校における性に関する教育、薬物乱用防止教育の推進について提言を受けました。	40
II－(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	A	柔道など激しいスポーツで生徒に怪我が無かった点が評価されました。	42

施策名	総合 評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
Ⅲ－(1) 信頼される教職員の育成	A	教職員の多方面にわたる研修への参加による資質・能力の向上が評価されました。教科指導、生徒指導の研修会の充実について提言を受けました。	46
Ⅲ－(2) 子どもたちの安心・安全の確保	A	保護者引き渡しなど、多方面にわたる危機に対応した避難訓練の実施及び緊急連絡サイトの活用が評価されました。	50
Ⅲ－(3) 学習環境の整備・充実	A	耐震化・老朽化への対策を着実に進め、安全な学校環境が整ってきており、評価されました。	54
Ⅳ－(1) 家庭の教育力の向上	A	「親の学習」講座の実施回数の倍増と着実な実施が評価されました。	58
Ⅳ－(2) 地域の教育力の向上	A	がんばルヘムの実施が評価されました。	60
Ⅴ－(1) 学習機会の提供と学習活動の支援	A	ふかや市民大学の実施が評価されました。田植えなどの体験できる事業の実施について提言を受けました。	64
Ⅴ－(2) 活動施設の整備・充実	A	公民館の年間利用者数の増加について評価されました。公民館の整備・充実の継続について提言を受けました。	66
Ⅴ－(3) 図書館の整備・充実	A	図書館活動体験事業について評価されました。毎年増加する図書館資料の適切な管理と利用者の利便性の向上について提言を受けました。	68
Ⅵ－(1) 渋沢栄一翁の顕彰	B	渋沢栄一翁の関連施設の保存・整備について提言を受けました。	70
Ⅵ－(2) 伝統文化の保存・継承と活用	A	旧煉瓦製造施設の保存・整備について提言を受けました。	72
Ⅵ－(3) 文化・芸術活動の活性化	A	深谷市文化会館で開催するコンサート等の参加者の満足度の高さ及びアーティスト倶楽部の実施が評価されました。	74
Ⅶ－(1) スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	S	深谷市総合体育館等の年間利用者数の増加が評価されました。体育館等の利用環境の整備について提言を受けました。	78
Ⅶ－(2) スポーツ・レクリエーション活動の活性化	S	ふかやシティハーフマラソンのエントリー者数の増加及び安全な運営が評価されました。	80



平成 28 年度  
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発 行 平成 28 年 11 月  
編 集 深谷市教育委員会

〒366-0823

深谷市本住町 1 7 - 3

TEL 0 4 8 - 5 7 4 - 5 8 1 1

FAX 0 4 8 - 5 7 4 - 1 7 4 4

